

長野市の埋蔵文化財第116集

浅川扇状地遺跡群

ひら ばやし ひがし おき
平林東沖遺跡

古牧中部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007年3月

長野市教育委員会

序

遺跡や遺物などの土地に埋蔵されている文化財は、郷土の成り立ちや文化を正しく理解する上で欠くことのできない貴重な遺産です。まさに「土地に刻まれた歴史」といわれる所以がここに 있습니다。現在長野市内では700箇所以上の遺跡が周知されていますが、こうした埋蔵文化財は、そのままの状態では地中に保存し、後世に伝えていくことが理想的な在り方です。しかし、現代社会においては、開発事業の影で破壊される運命をたどる埋蔵文化財が生じてしまうことも致し方ない現実となっております。そこで次善の策として発掘調査を行い、記録として後世に伝えていく手段がとられています。

ここに長野市の埋蔵文化財116集として刊行いたします本書は、古牧中部土地区画整理事業に伴い、平成13年から3ヵ年にわたって実施してまいりました埋蔵文化財発掘調査の報告書であります。

調査では、古墳時代前期から平安時代にかけての遺構・遺物を確認することができました。






また、事業予定地周辺ではこれまでに埋蔵文化財の包蔵が希薄で遺跡のみられない地域と考えられておりましたが、今回の発掘調査によって新たな埋蔵文化財の確認がなされた事は、地域史解明の一助としてお役立ていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行にいたるまで公私にわたり多大なご援助・ご指導を賜りました関係諸機関ならびに各位に心からお礼申し上げます。

平成19年3月

長野市教育委員会
教育長 立岩 睦秀

例 言

- 1 本書は、古牧中部土地区画整理事業に伴い、記録保存を目的として平成13～15年度に実施した発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、長野市都市開発部区画整理課の依頼により、長野市教育委員会埋蔵文化財センターが直轄事業として実施した。
- 3 発掘調査地は長野市大字平林字東沖301他に位置する。
- 4 遺構図中の座標・標高は、日本水準原点の座標および平面直角座標系座標値（日本測地形2000）に基づく。
- 5 遺構の略号は、SB：竪穴住居、SK：土坑、SD：溝、SX：性格不明遺構、を表す。
 - ・遺構図の縮尺は基本的には1：80としているが、微細図などはこの限りではなく適宜縮尺を明示した。なお、遺構図中のスクリーン・トーンは、が炭化面を、が焼土面を、が硬化面を表し、破線は貼束を表す。
- 6 実測遺物は、土器が口縁または底径が全体の1/2以上のものを基本的に選んだが、一部についてはこの限りではない。また、青磁については破片であったため写真のみとした。
 - ・遺物図は、土器の縮尺は1：4で、その他の遺物については適宜明示した。
 - ・土器実測図中、土師器は土器断面を白抜きに、須恵器は黒塗り、灰釉・緑釉陶器はスクリーン・トーン（灰釉 、緑釉 ）にて示した。また、黒色処理されたものは土器内面にスクリーン・トーンにて示した。
 - ・遺物一覧表では、調査区ごとに遺構一覧表にある遺構と、特に土器の出土量と遺物の実測個体数があるものを個別に、他は遺構ごとにまとめて出土土器量及び実測数を提示した。
 - ・土器遺物写真の番号は実測図番号と対応する。
- 7 人骨・獣骨の自然科学分析をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した（第V章）。
- 8 遺物写真撮影・土器観察表作成は小出が行った。
- 9 出土遺物および調査の諸記録は、長野市教育委員会埋蔵文化財センターにて保管している。
 - ・「平林東沖遺跡」の略記号は「AHB-HO」とし、13年度調査分をAHB-HO、14年度調査分をAHB-HO-B区、15年度調査分をAHB-HO-C区とした。

目 次

序	
例 言	
第 I 章 調査経過	1
第 1 節 調査に至る経過	1
第 2 節 発掘調査の経過	4
第 3 節 調査体制	7
第 II 章 調査地周辺の環境	9
第 1 節 遺跡の立地	9
第 2 節 周辺の考古学的環境	10
第 III 章 調査概要	12
第 1 節 試掘調査	12
第 2 節 発掘調査概要	13
第 IV 章 調査の成果	22
第 1 節 遺構	22
1 竪穴住居	22
2 土坑	37
3 掘立柱建物	41
4 井戸	43
5 溝	46
6 性格不明遺構	47
<表 1 遺構一覧表>	48
第 2 節 遺物	50
1 土器	50
<表 2 土器観察表>	72
2 土製品	85
3 石製品	86
4 鉄・銅製品	87
5 木・骨製品	89
<表 3 遺物一覧表>	90
第 V 章 平林東沖遺跡の自然科学分析	93
第 VI 章 結語	105
・遺物写真	

挿 図 目 次

図1 調査範囲および調査区位置図…………… 1	図37 SK8実測図…………… 39
図2 調査地および周辺地図…………… 2	図38 SK7実測図…………… 40
図3 調査地周辺字境図…………… 3	図39 ウシ埋納土坑実測図…………… 40
図4 遺跡群範囲および長野市防災基本図 地形分類図…………… 9	図40 ST1実測図…………… 41
図5 調査地周辺の遺跡位置図…………… 11	図41 ST2実測図…………… 42
図6 試掘坑位置図…………… 12	図42 ST3実測図…………… 42
図7 試掘坑柱状図…………… 12	図43 井戸実測図①…………… 43
図8 調査区位置図…………… 14	図44 井戸実測図…………… 44
図9 A区遺構分布図…………… 15, 16	図45 SD34実測図…………… 46
図10 B区遺構分布図…………… 17	図46 SX7実測図…………… 47
図11 C区遺構分布図…………… 18	図47 土器実測図①…………… 52
図12 C区-2遺構分布図…………… 21	図48 土器実測図②…………… 53
図13 SB1実測図…………… 22	図49 土器実測図③…………… 54
図14 SB2・4実測図…………… 23	図50 土器実測図④…………… 55
図15 SB5実測図…………… 24	図51 土器実測図⑤…………… 56
図16 SB6実測図…………… 24	図52 土器実測図⑥…………… 57
図17 SB7実測図…………… 25	図53 土器実測図⑦…………… 58
図18 SB8実測図…………… 25	図54 土器実測図⑧…………… 59
図19 SB9実測図…………… 26	図55 土器実測図⑨…………… 60
図20 SB10実測図…………… 27	図56 土器実測図⑩…………… 61
図21 SB12実測図…………… 28	図57 土器実測図⑪…………… 62
図22 SB15実測図…………… 29	図58 土器実測図⑫…………… 63
図23 SB16実測図…………… 30	図59 土器実測図⑬…………… 64
図24 SB16カマド周辺実測図…………… 31	図60 土器実測図⑭…………… 65
図25 SB18実測図…………… 31	図61 土器実測図⑮…………… 66
図26 SB19実測図…………… 32	図62 土器実測図⑯…………… 67
図27 SB19カマド実測図…………… 33	図63 土器実測図⑰…………… 68
図28 SB19カマド土器下面実測図…………… 33	図64 土器実測図⑱…………… 69
図29 SB21実測図…………… 34	図65 土器実測図⑲…………… 70
図30 SB22実測図…………… 34	図66 土器実測図⑳…………… 71
図31 SB23実測図…………… 35	図67 土製品実測図…………… 85
図32 SB11実測図…………… 35	図68 石製品実測図①…………… 86
図33 SB17実測図…………… 36	図69 石製品実測図②…………… 87
図34 SB20実測図…………… 36	図70 鉄製品実測図…………… 88
図35 SK93実測図…………… 37	図71 青銅製螺番実測図…………… 88
図36 SK95実測図…………… 38	図72 銅鍔石影…………… 89
	図73 木・骨製品実測図…………… 89

第I章 調査経過

第1節 調査に至る経過

遺跡の位置する平林地区は、旧長野市街地に接する。現在は国道406号線（平林街道）などが通り、近年市街地化が進んでいる地域である。この中で長野市都市計画事業として古牧中部土地区画整理事業が具体化し、開発事業が行われることとなった。

事業予定地の周辺には同時点で遺跡の所在確認はなかったが、平成12年11月に埋蔵文化財試掘調査を行ったところ、予定地の一部に埋蔵文化財包蔵の確認がされたため、事業着手以前に記録保存を前提とした発掘調査を実施する必要がある旨を調査依頼者である長野市都市開発部区画整理課に伝えた。

平成13年4月24、25日に、再度試掘確認調査を実施した結果をふまえ、4月27日に都市開発部区画整理課との間で、埋蔵文化財包蔵が予測される範囲約5,000㎡について記録保存を前提とした発掘調査の実施を行うことに合意し、7月17日より発掘調査に着手した。

平成14年度は、4月8日付で都市整備部区画整理課による発掘依頼調査依頼書を受け、事業面積3,000㎡のうち2,100㎡以上を調査して、記録保存を図ることとし、5月30日より発掘調査に着手した。

平成15年度は、2月24日付で埋蔵文化財発掘調査依頼を受け、4月17日付文化財保護法第57条の3に基づく土木工事等のための通知を受け、4月24、25日に事業地において予備調査を行い、約1,500㎡について調査による記録保存を図るものとし、5月6日より調査に着手した。



図1 調査範囲および調査区位置図 (S=1:2,000)



調査地周辺航空写真（平成2年6月撮影、佛ジャステック）



図2 調査地および周辺地図（S=1：10,000）

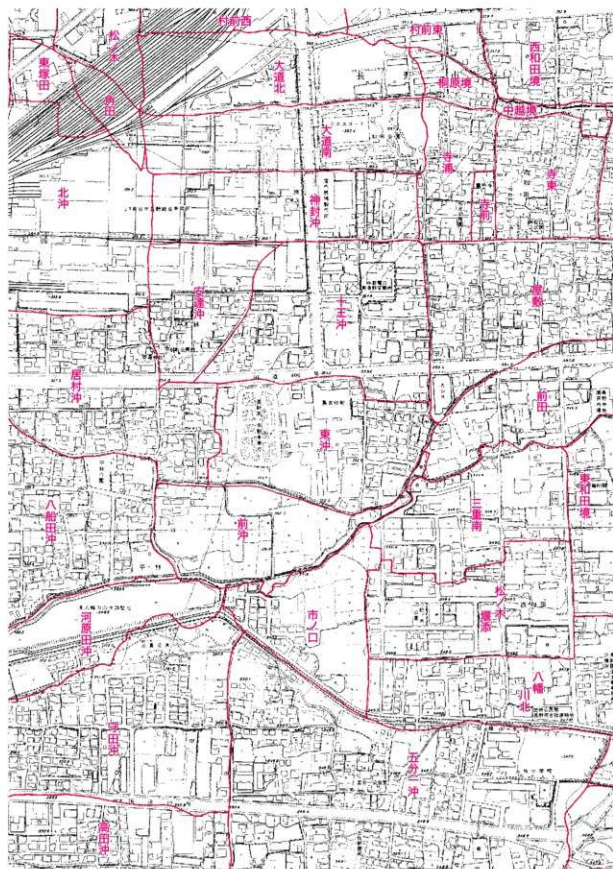


图3 调查地周边字境图 (S=1:6,000)

第2節 発掘調査の経過

平成13年度

- 7月17日～ 重機による表土剥ぎ作業。
7月23日～ 発掘作業員参加による調査開始。排水溝掘削、遺構検出作業。
7月25日 職場体験学習（川中島中学校・生徒1名）
7月30日 遺構検出・掘り下げ作業。体験学習（長野商業高校、考古学クラブ・教師2名・生徒5名）
7月31日～ 遺構掘り下げ作業。遺構写真撮影。
8月7日 雨天、現場作業中止。土器洗い。
8月8日 遺構検出・掘り下げ作業。職場体験学習（山陽中学校・生徒5名）
8月9日 長野市立博物館・親子発掘体験。
8月20日 第1回遺構測量委託。
9月17日 遺構掘り下げ。排水作業。第2回遺構測量委託。
9月25日～ 遺構掘り下げ。
10月1日 雨天、現場作業中止。土器洗い。
10月2日～ 調査区南側、遺構検出作業。遺構掘り下げ。
10月4日 遺構掘り下げ、写真撮影。
10月10日 雨天、現場作業中止。土器洗い。
10月11日 排水作業。調査区東側遺構検出。
10月12日 調査区南側遺構、掘り下げ・写真撮影。
10月15日 第3回遺構測量委託。調査区西側、遺構検出作業。
10月16日 調査区南側遺構検出。遺構写真撮影。
10月17日 雨天、現場作業中止。重機による排土搬出作業。
10月18日 排水作業。調査区北東部、全体写真撮影。
10月19日 調査区南、重機による表土剥ぎ作業。遺構検出、掘り下げ作業。
10月24日～ 排水作業。遺構検出、掘り下げ作業。写真撮影。
11月1日 現場における作業を終了する。
作業日数40日。



A区表土除去後（南東から）



A区調査風景（北から）



A区調査風景（南東から）



A区調査風景（S B 16周辺）

平成14年度

- 5月30日～ 調査区西半部、重機による表土剥ぎ作業。
6月3日 発掘作業員参加による調査開始。調査区周囲に側溝を掘る。
6月5日～ 遺構検出、掘り下げ作業。
6月17日～ 重機による調査区東側の検出。平行して土器洗い。
6月19日 遺構の検出、掘り下げ。
6月20日 第1回遺構測量委託。
6月21日 遺構掘り下げ、写真撮影。
6月24日 遺構写真、調査区全景写真撮影。
6月25日 土器洗い。
6月27日～ 調査区東半部、表土剥ぎのため重機による排土の切り返し作業。平行して土器洗い。
7月8日 遺構の検出、掘り下げ作業。
7月18日 遺構の個別図面、写真撮影。
7月19日 第2回遺構測量委託。土器洗い。
7月23日 遺構写真、調査区全景写真撮影。
7月24日 第3回遺構測量委託。
7月25日～ 土器洗い。
7月31日 現場における作業を終了する。
作業日数37日。



B区調査風景（北から）



B区調査風景（北東から）



C区表土除去（南から）



C区調査風景（南から）

平成15年度

- 5月6日～ 調査区東側より、重機による表土剥ぎ作業。
5月12日 発掘作業員参加による調査開始。表土剥ぎ作業を平行して行う。
5月13日～ 遺構検出、掘り下げ作業。
5月19日 新しく表土剥ぎを行った部分の検出作業。
5月20日 遺構掘り下げ作業。
5月21日 遺構掘り下げ作業。調査区全景写真撮影。
5月27日 第1回遺構測量委託。
5月29日 調査区全景写真撮影。土器洗い。
5月30日 第2回遺構測量委託。土器洗い。
6月2日 調査区北側、重機による表土剥ぎ作業。土器洗い。
6月3日～ 重機掘削済みの所から遺構検出作業

- 6月11日 調査区北側、遺構掘り下げ。
- 6月12日 調査区全景写真撮影。
- 6月13日 遺構掘り下げ。第3回道構測量委託。
- 6月17日 雨天、現場作業中止。土器洗い。
- 6月18日 調査区西側、遺構掘り下げ作業。
- 6月23日 第4回道構測量委託。調査区航空写真撮影。
- 6月24日 調査区南東、検出のためグリットを設定。掘り下げ。
- 6月25日 雨天、現場作業中止。土器洗い。
- 6月26日 グリット部、遺構検出作業。
- 7月1日～ 遺構掘り下げ作業。
- 7月7日 雨天、現場作業中止。土器洗い。
- 7月8日 遺構掘り下げ。調査区北側、重機による表土剥ぎ作業。
- 7月9日 グリット部、全景写真撮影。北側、遺構検出作業。
- 7月11日 調査区北側、東半を写真撮影。
- 7月15日 調査区北側、全景写真。第5回道構測量委託。
- 7月16日 土器洗い。
- 7月18日 現場における作業を終了する。
作業日数52日。

現場作業終了後、年度ごとに整理作業を、平成18年度より報告書作成作業を行い本書の刊行に至る。



C区SX7掘り下げ（北から）



C区掘り下げ（南西から）



C区遺構測量

第3節 調査体制

長野市域における埋蔵文化財の保護措置については、學術調査及び史跡等の保護保存に係わる學術調査を長野市教育委員会文化財課が担当し、各種開発行為に伴う緊急調査は埋蔵文化財センターの直轄事業として実施している。

(平成13～15年度)

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	久保 健（～平成13年度）	
		教育長	立岩睦秀（平成14年度～）	
統括責任者	長野市埋蔵文化財センター	所 長	磯野久夫	
		所長補佐	矢口忠良	
庶務担当	係 長	北村 実 寛（～平成13年度）		
		山岸 恒 雄（平成14年度～）		
	職 員	青木 厚子（～平成14年度）		
		吉村 久江（平成15年度～）		
	事務員	塚田 容子		
調査担当	係 長	青木 和 明（主任調査員、平成15年度～）		
		千野 浩（主任調査員、～平成14年度）		
	主 査	飯島 哲也		
	主 事	風間 栄一		
		小林 和子		
	専門員	中殿 章子（～平成13年度）	専門員	清水 竜太
		山田美弥子（～平成13年度）		内山 梢（～平成14年度）
		西沢 真弓（～平成14年度）		山下 大輔（平成14年～）
		小野由美子（～平成15年、14年度調査員）		遠藤恵実子（平成14年度～、調査員）
		堀内 健次（平成15年度調査員）		長 瀬 出（平成15年度～）
		藤田 隆之（～平成13年度、調査員）		山野井智子（平成15年度～）
		宮川 明美		藤 原 崇志（平成15年度）
発掘作業員	青柳千代子 井原 武 太田幸子 太田周男 太田正紀 金子千絵 北沢節子 木下智恵子 栗林忠義 小山聖子 佐藤綾子 佐藤育三 佐藤ふ志子 鈴木美紀 國原邦博 中島昭二郎 永原恵美香 樋沢加代子 増田 隆 宮島郁美 宮島久美子 向山純子 山上富美子 山田寿恵			
遺構測量委託	株式会社写真測図研究所			

(平成18年度)

調査主体者 長野市教育委員会 教育長 立岩睦秀

総括管理者		文化財課長	北村真一郎
統括責任者	局主幹兼埋蔵文化財センター	所長	矢口忠良
庶務担当	係長 宮澤和雄		
	職員 吉村久江	事務員	塚田容子
調査担当	係長 青木和明		
	主査 風間栄一		
	小林和子		
	主事 宿野隆史		
	専門員 遠藤恵実子	専門員	森田利枝
	長瀬 出		山岸千晃
	山野井智子		小池勝典
	石丸敦史		柴田洋孝
	小出泰弘		

整理調査員 青木善子 池田寛子 多羅沢美恵子 鳥羽徳子 中殿章子 武藤信子 矢口栄子
 整理作業員 倉島敬子 小泉ひろ美 清水さゆり 関崎文子 富田景子 西尾千枝 三好明子 村松正子

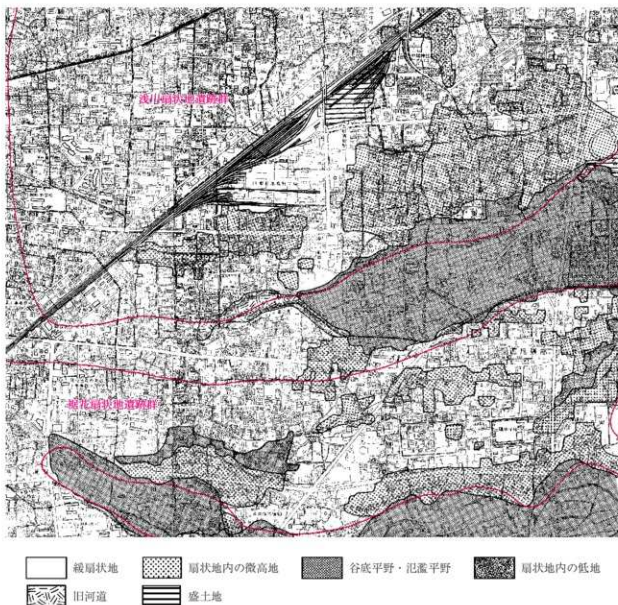
自然科学分析（骨・骨製品）業務委託 バリノ・サーヴェイ株式会社

第Ⅱ章 調査地周辺の環境

第1節 遺跡の立地

平林東沖遺跡の位置する古牧地区は長野市街地の東方から続く平坦地である。裾花川の支流が裾花川扇状地の傾斜方向へと流れ、南縁では扇状地末端の低い崖が続いている。千曲川・犀川の氾濫原に一部が掛かり、第四紀新層の沖積土が覆う肥沃な土地である。また、周辺は現在のところ遺跡の確認がほとんどされていない場所である。

本遺跡は浅川扇状地遺跡群の南端部、裾花扇状地遺跡群とは南に接する場所に位置する。浅川扇状地は飯綱山を水源とする浅川によって東南方向を主軸とした扇状地を形成し、扇状地内には数多くの遺跡が存在している。



一方、裾花扇状地遺跡群は旭山北麓の里島付近を扇頂部源流としており、本遺跡の位置する平林では、善光寺下から北尾張部にかけて浅川扇状地との複合扇状地を形成している。

浅川扇状地遺跡群は多くは緩扇状地であるが、平林東沖遺跡付近では微高地に、裾花扇状地遺跡群と接する場所では裾合谷となり、砂・シルト層の分布による軟弱な地盤となっている。裾花扇状地も本遺跡付近では、微高地及び谷底平野が多く浅川扇状地の様な安定した扇状地をなしていない様子が見られる。

第2節 周辺の考古学的環境

平林東沖遺跡は、浅川扇状地遺跡群に属するが、浅川扇状地遺跡群での調査の行われた遺跡とは離れた位置にあり、隣接する裾花扇状地遺跡群との間に位置しているため、ここでは平林東沖遺跡の南北にある浅川・裾花の両遺跡群の遺跡について示した。(図5)

浅川扇状地遺跡群

現在までに多くの遺跡が確認されている。明確な居住域がみられ始めるのは縄文時代からであり、四ツ屋遺跡(11)、吉田古屋敷遺跡(7)では後期の敷石住居が確認されている。また、弥生時代中期・後期では遺跡の数とその規模から、遺跡群内でも中心的な時期であったことがうかがわれる。ここでは三輪遺跡(2~5)や吉田古屋敷遺跡(7~9)で当該期の住居と埋葬遺構が検出されている。以後の集落の規模の中心は古墳時代中期・後期となるが、古墳時代前期では住居址のほか四ツ屋遺跡、吉田古屋敷遺跡(9)で周溝を伴う墳墓が確認されている。弥生時代・古墳時代においては墓域としての性格もみられ、集落は縄文時代後期から平安時代まで継続して営まれている。

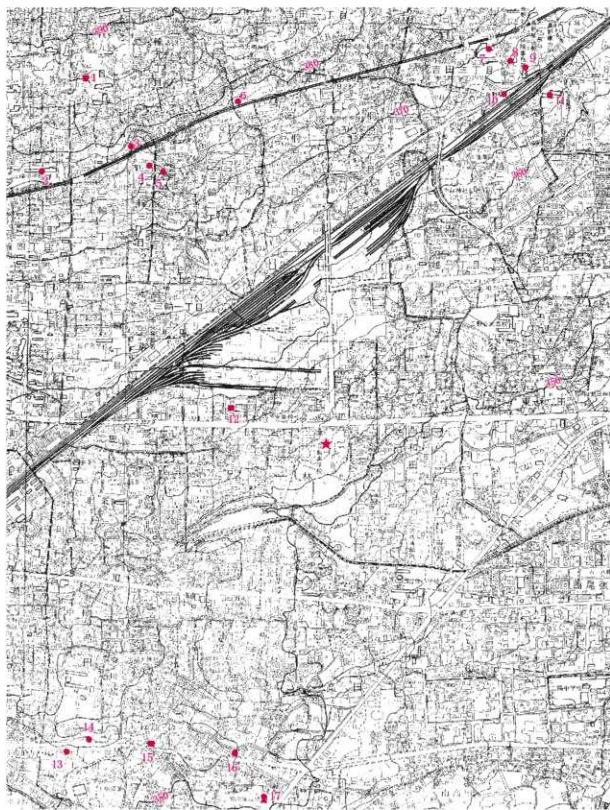
裾花扇状地遺跡群

居住域は弥生時代中期から平安時代にかけてのものが確認されている。この内、西方遺跡(13・14)では古墳時代前期・古墳時代後期から平安時代にかけての住居址が検出され、寺村遺跡(16)では平安時代の住居址が検出されており、10世紀中頃から11世紀前半まで連続する集落遺跡である。また、南向塚古墳(17)は盆地平野部に位置する前方後円墳とされる古墳である。墳形を含め詳細については明らかではないが、築造などに関しては当該期の周辺集落を含めての検討が待たれる。

このほかには、現在では主に土塁の確認がなされるのみであるが、押鎌城跡(1)、平林城跡(12)、中沢城跡(15)と3箇所が確認される。

以上のように特に浅川扇状地内では多く遺跡が確認されているが、これらの遺跡が存在するのは標高360mまでの扇状地形を呈する場所である。その中で平林遺跡はそれよりも南に外れた位置にある。この辺りは旧裾花川の河道にあたり、等高線からみられる地形も北側の扇状地地形とはやや異なった様相となっており遺跡の数は少なくなる。遺跡が位置する一帯は条里的地割が比較的残る場所であり、上高田の元水田地(南向塚古墳周辺)にて行われた裾花川乱時代の河床層でのプラント・オパール分析では、平安時代以前には稲作が行われていた可能性が示されている。

- <参考文献> 長野市誌編纂委員会 1997『長野市誌』第1巻 自然編、第8巻 旧市町村編
長野市教育委員会 1993『三輪遺跡(4)』、1996『吉田四ツ屋遺跡・三輪遺跡(6)・雲河原遺跡』、1997『吉田古屋敷遺跡』、2004『西方遺跡(2)』



1：押鐘城跡、2～5：三輪遺跡、6 榎原宮西遺跡、7～9：吉田古屋敷遺跡、10：新幹線地点、11：四ッ屋遺跡
 12：平林城跡、13～14：西方遺跡、15：中沢城跡、16：寺村遺跡、17：南向塚古墳（星印：平林東沖遺跡）

図5 調査地周辺の遺跡位置図（等高線：大正15年測量、昭和27年修正図を一部改変）（S = 1 : 15,000）

第三章 調査概要

第1節 試掘調査

調査に先立ち、工事予定地とその周辺において確認調査を行った。計10地点にて行い(図6)、A～H地点を平成12年度に、I、J地点を平成15年度にそれぞれ行ったものである。

その結果、A、B地点では現地表面下20～30cmで遺物包含層が確認された。C、D地点では包含層末端部と考えられる堆積がみられた。E～G地点での確認はなく、H地点では、現地表面下35cmで掘花川による堆積と考えられる混砂礫層に達した。

ここでの地山は明黄褐色の砂礫層であるが、包含層がみられない場所では現地表面(畑、水田耕作土)直下から暗青灰色の粘質層となっている。I、J地点では、現地表面1m以上に渡り

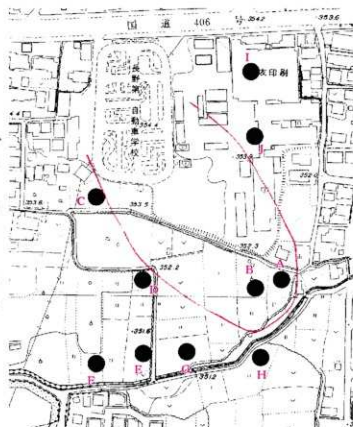


図6 試掘坑位置図

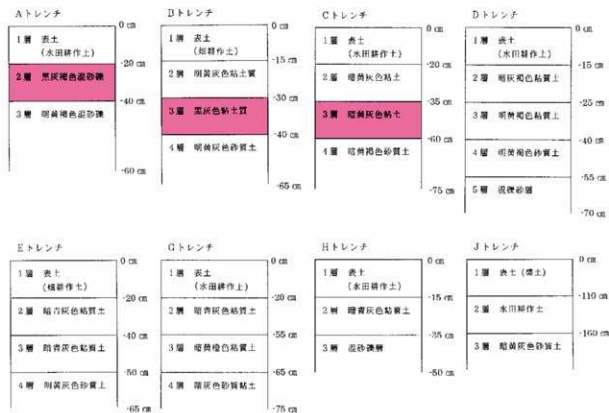


図7 試掘坑柱状図

旧建物に伴う盛土であるが、その下の水田耕作土下から暗黄灰色砂質層となり、遺物包含層端部であることが確認された。以上を合わせ、遺跡は図6に示す範囲に展開するものと考えられる。

第2節 発掘調査概要

調査は、葛友印刷社屋移転地（A区）、高田若槻線道部分及び調整池（B区）、葛友印刷社跡地及び高田若槻線道路部分（C区）とに分けて行った。調査面積は、A区2,030㎡、B区1,770㎡、C区1,490㎡で総面積は5,290㎡である。C区では、現地表面からの深さがあったため、調査区は南側と東側で予定の範囲よりも2m内側へ法面を取っての設定を行った。

遺構は、古墳時代前期から平安時代までのものを主とする。竪穴住居は古墳中期・後期のものが多く、当該期を中心とした集落域である。また、住居域としては平安時代を下限とするが、この時期には前時代に比べ急激に減少する様子がみられる。なお、平安時代以降では井戸や土坑、溝の他、土壇墓や牛の埋納がみられ、住居域以外の土地利用がなされるようになったことがうかがわれる。



調査地航空写真（平成15年度）



图8 調査区位置图 (S = 1 : 800)



图9 A区遺構分布図 (S = 1 : 300)



图10 B区遗构分布图 (S = 1 : 300)

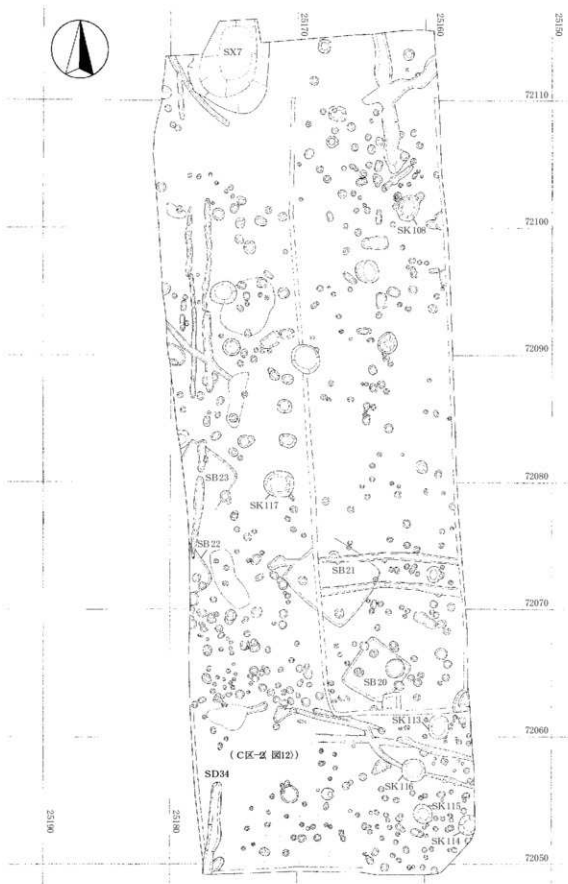


图11 C区遗物分布图 (S=1:300)

A区の概要

現地表面から遺構面までの深さは60cmを測る。検出面は黄褐色を呈する。検出面はレキを含む箇所がみられ、さらに数カ所において北西方向からの河川の影響とみられるレキ層が確認できる。

遺構は調査区内に密に存在する。主なものには竪穴住居・掘立柱建物・土坑墓・井戸がある。住居が竪穴時代中期・後期を、その他の掘立柱建物や土坑が竪穴時代前期から平安までを中心としている。

住居址は13軒（竪穴時代中期7軒、後期5軒、平安時代1軒）が検出された。主に調査区の東側に比較的密に位置しており、切り合い関係がみられるものもある。内部施設は炉を持つものとカマドが造られるものとがみられる。出土土器の様子からも、同時期に渡り継続して集落が展開していたことがうかがわれる。

柱跡では掘立柱建物が2軒確認された。

土坑墓は2基。成人と幼児のもので、隣接した位置にあり、主軸・頭位をほぼ同じくする。検出の状況は成人のものが足部を溝に切られる他は良好である。この内幼児のものには、副葬品として鹿角の加工品がある。

土坑は60基以上を数える。円形のもの内、井戸址として確認されたのが8基ある。この内、側面や底部に石材や板材を残すものもあるが、いずれも1段又は2段の素堀りのものである。なお、この場所は湧水点が高く、場所によっては検出面より1m弱の深さから水が湧き始める。このため、他の用途を明確にしえなかった土坑についても、井戸である可能性が考えられる。

また、ウシの下顎骨が入れられた長方形の土坑がある。他の部位はみられないが、1個の下顎骨を左右半分に割り並べたもので、意図的に埋納したものである。この他、検出面や覆土中または溝址からも獣骨や人骨の一部がみられた。

住居域の中で、長方形の上坑中から台付甕や器台などが出土している。同時期の遺物があるものが2基、切り合う形で掘られているものである（SB15、SK71）。

遺物は全体的に、覆土中からの土器の出土が多いと



A区検出（南東から）



A区SB15、SK71周辺（西から）



A区SB1～4周辺（西から）



A区調査区全景（北西から）

言える。また、緑釉・灰釉陶器、硯がみられる。土坑内からの出土もあるが、多くは検出面からの出土であり、土器の量から見ても意図的に廃棄、埋納がされた様子はみられない。

B区の概要

現地表面から遺構検出面までの深さは45cmを測る。

遺構は古墳時代前期・後期、平安時代に渡り、住居・掘立柱建物・井戸・土坑が検出された。

検出面は、明黄褐色土であるが、調査区東側で河川の影響とみられる赤泥じりの黒褐色土が帯状に広がっている。なお、平安時代の遺構は、このレキ層よりも西側に位置し、古墳時代の遺構の内、後世にこの層の影響を受けたことが考えられるのがみられることから、調査区内の河川は古墳時代以降に流れ込んだものであることがうかがわれる。

竪穴住居は3軒（古墳時代後期2軒、平安時代1軒）が検出された。この内古墳時代のものでは、カマド内に土器や支脚石・天井石を残し、主柱穴には礎石を残す程の良好な検出状態のものがある。

古墳時代前期の遺構では、円形の土坑の中に土器が多数入れられており、その形態から、井戸址の可能性が考えられる。また、中に器台などの小型土器が置かれた方形に浅く掘り込まれた土坑もあり、遺構の祭祀的性格も考えられる。

この他に、調査区西側に、長さ1m程の長方形の土坑が8基ほど切り合った状態で検出された。覆土中からは僅かではあるが埴（平安）の出土のある土坑もある。遺構の位置は密接し、遺構の検出状態は底面で湧水がみられる他は良好であるが、遺構の性格を明らかにするには至らなかった。

この他、平安時代の遺構では、素堀の井戸が2基検出された。なお、調査区南東側から南は遺構の検出がなく、本道跡の南東側の端部であることが確認された。

C区の概要

現地表面からの深さは盛土が多い所で170cm、その下の旧表土からは30cmの深さがある。遺構は古墳時代



B区表土除去（南東から）



B区平安時代土坑列（西から）



B区調査区西半全景（北から）



B区調査区東半全景（北西から）

中期から奈良・平安時代のものを中心としている。

竪穴住居は全部で4軒（古墳時代中期3軒、平安時代1軒）あり、この内古墳時代中期のものは、後世の河川の影響を受けているため、検出面からの掘り込みが浅く、レキを多く含んだ状態での検出であった。

その他はほとんどが溝や土坑・柱穴である。柱穴の中には柱痕を残すものがみられたが、掘立柱建物の検出はなかった。また、溝では覆土中から完形に近い土器や、金メッキが施された蝶番、ウマの下顎骨が出土している。

調査区南西部で特に遺構の検出がはっきりとしなかったため、12×11mの範囲を設定し、一段深く掘り下げた（C区-2）。その結果、検出面から約15cm掘り下げた時点で明確な検出に至った（図12）。

ここでは、上面でははっきりとしなかった井戸（SK132）と溝（SD34）の下面を、また土器のみられた土坑と広い範囲での不整形の掘り込みが検出された（SX1～6）。掘り込みの底面には凹凸があり、SX3・4以外では、SX5→SX1→SX2→SX6の順での切り合いがみられる。このうちSX6では、底部に完形の土器が置かれた様子がみられ、意図的に埋納したことがうかがわれる。覆土中からは土器・獣骨・人骨の一部が出土した。

この調査区では、西側で古墳時代の住居域の端となることがみられ、以降の時期には主に住居域以外の土地利用がなされるようになったことがうかがわれる。

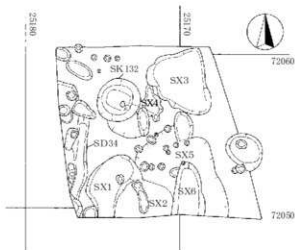


図12 C区-2遺構分布図（S=1：250）



C区調査区全景（南から）



C区調査区全景（東側）（北東から）



C区調査区全景（西側）（南東から）



C区-2全景（南から）

第IV章 調査の成果

第1節 遺構

本調査で検出した遺構は、竪穴住居21軒、掘立柱建物3軒、土坑墓2基、井戸18基、溝45条、他に土坑、柱穴、性格不明遺構である。時期は古墳時代前期～平安時代までのものを主としている。竪穴住居は古墳時代中・後期を中心とし、土坑、溝は古墳時代前期～平安以降まで連続してみられる。

遺構番号は、ピットのみが土器の検出があったものについて調査区ごとに、その他の遺構はA区～C区まで通して遺構番号を付けた。この内、本章では竪穴住居（検出がわずかであったSB3を除く）・掘立柱建物・土坑墓・井戸は検出した遺構の全てを、その他の溝・土坑・性格不明遺構については、特筆事項のあるものの図版・写真を掲載した。なお、基本的な遺構の規模・主軸などの情報は本文中では省き、表1遺構一覧表にまとめた。

1 竪穴住居

古墳時代

SB1

検出は北側の一部を柱穴によって切られるのみで住居の全体が把握できた。床面は全体に軟弱で、特に東側は地山のレキ層を掘り抜いており不明瞭である。柱穴はP1～P4の方形配列の4本が想定される。なお、P5は出入口施設に関連する掘り込みの可能性がある。

地床は奥壁側のほぼ中央に位置する。約16cmの掘り込みに炭化物及び焼土の堆積が確認された。

なお、P3からは壺の頸部が逆位の状態で出土している。



SB1 (南から)

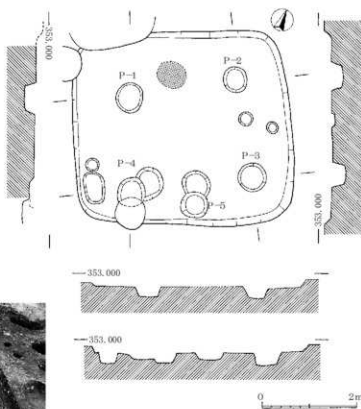


図13 SB1実測図 (S=1:80)

SB2・4

SB2はSB4によって切られるため、一部のみの検出である。住居に伴う施設では柱穴としてP1が想定される。SB4は南側を土坑によって切られるが、その他の検出は良好である。床面は軟弱で不明瞭である。柱穴は住居内いくつかみられるが、いずれも後世のものと考えられ、本住居に伴うと考えられるものは不明である。

カマドは奥壁中央に位置する。袖部は右側が一部残り、燃焼部には硬化面がみられる。カマド中央には脚の端部を欠損した高坏が逆位に置かれており支脚と想定される。なお、出土土器は、SB2・4が混じる他、SB3出土の土器とも接合することが判明した。

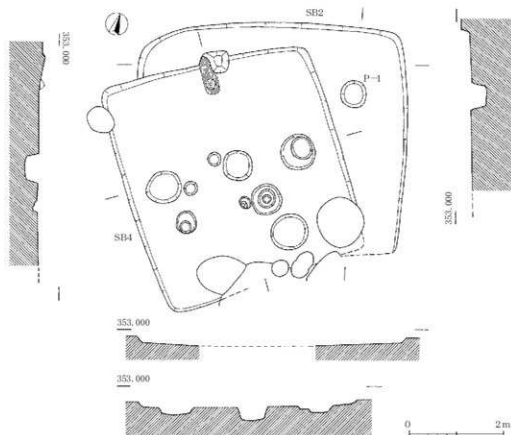


図14 SB2・4実測図 (S=1:80)



SB2・4 (南から)



SB4カマド

SB 5

検出面からの掘り込みは浅く、北側壁では、一部壁面の確認がない程である。床面はレキを含みやや軟弱である。

住居に伴う柱穴はP1～P6があり、この内、位置からP1～P3が主柱穴と考えられるが明確ではない。なお、P6は出入口施設と考えられる。壁周溝は南側壁にみられる。

住居中央奥壁寄りには、焼土面がみられる。炉の可能性もあったが、住居に伴う土器が長胴甕・甗であることからむしろカマドの存在が示唆される。

また、地床炉の西側上方にも狭い範囲ではあるが、炭化物の広がりがみられる。周辺からの遺物の出土はみられず、性格については不明である。

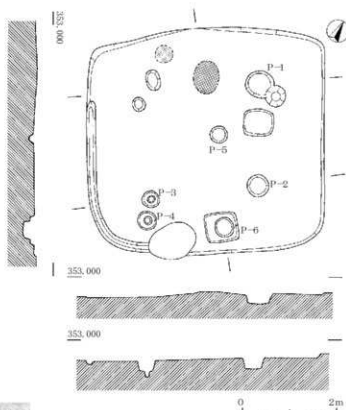


図15 SB 5実測図 (S = 1 : 80)



SB 5 (南東から)



SB 6 (北西)

SB 6

南東側をSB 7に切られ、東側は調査区外にかかる。床面は明瞭だが、軟弱である。主柱穴は不明である。住居に伴う施設はみられないが、北壁中央では比較集集中して土器が出土している。

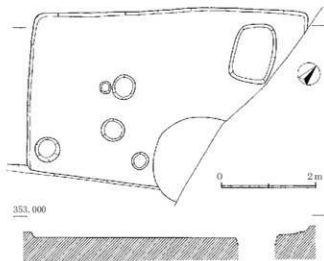


図16 SB 6実測図 (S = 1 : 80)

SB7

北側でSB6を切り、東半は調査区外となっているため、全体の半分程の検出である。

床面は全体に軟弱で不明瞭である。主柱穴はP1～P3で4本の方形配列が想定される。住居址西壁および南壁際に壁周溝がみられる。炉・カマド施設の確認はない。土器はP1周辺の覆土より完形の環が比較的まとまって出土している。



SB7 (南東から)

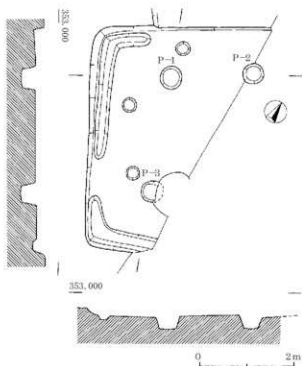


図17 SB7実測図 (S=1:80)

SB8

遺構の検出状況は良好であるが、床面は全体的に不明瞭で軟弱である。

主柱穴にはP1～P4の4本の方形配列が考えられるが、それぞれの掘り込みは比較的浅い。

カマドは奥壁中央に位置する。袖部の先端に河原石を置く粘土構築のもので、燃焼部の上面からは、土師器甕と環が出土している。また、中央には支脚の河原石がそのまま残されている。



SB8 (南から)

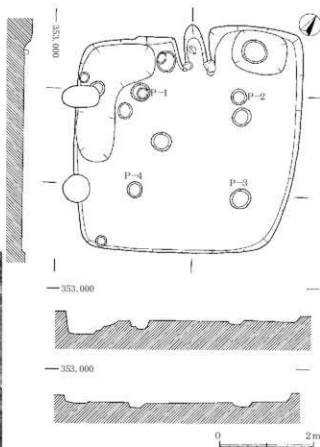


図18 SB8実測図 (S=1:80)



SB8カマド検出時



SB8カマド

SB9

SB5を一部切る。床面は地山を掘り抜いたもので、全体に軟弱で不明瞭である。主柱穴は位置からP1～P4が考えられるが、P4以外は掘り込みが浅く決定するには至らない。また、P5は出入口施設に伴う掘り込みの可能性がある。

カマドは奥壁中央付近に位置する。両軸で、燃焼部の上面からは土器が固まって出土している。



SB9カマド

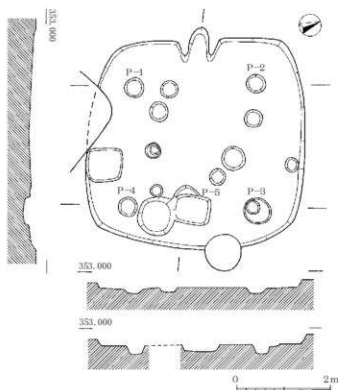


図19 SB9実測図 (S=1:80)



SB9 (東から)

SB10

遺構の検出状態は良好で、住居の全体が確認できる。床面は南東側で硬化面がみられるものの、西側でレキ層がみられるなど全体的に軟弱な状態である。支柱穴はP1～P4の方形配列である。いずれも柱根がみられるが、湧水のため正確な底面の確認には至らなかった。

P5・6は2本1対の出入り口施設に関する柱穴と考えられる。また、カマド前面にも2本1対をなす柱穴(P9・10)があり、住居に伴う施設としての可能性が考えられる。

南西以外の壁面では壁周溝がみられ、この内、P4、P6からは、壁面に向かって間仕切溝がみられる。

住居南東側にはベッド状遺構がみられる。2m×1mの規模で、住居床面から20cmの高さがあり、支柱穴P3と遺構の北側に位置するP7との間に間仕切り溝がある。

カマドは奥壁の中央に位置する。両袖カマドで、袖部は拳大の河原石を使用した石芯粘土製のものである。燃焼部には支脚として土師器の甕が逆位に設置されている。

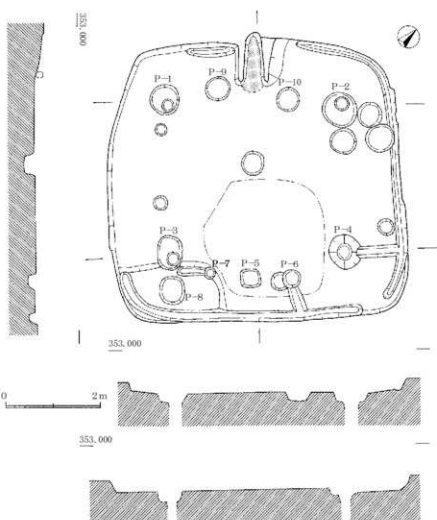


図20 SB10実測図 (S = 1 : 80)



SB10 (南東から)



SB10カマド



A区北側住居周辺（北西から）

SB12

遺構は多くが調査区外にかかっており、全体の1/3程の検出となった。床面は明瞭であり、住居中央にのみ広く硬化面がみられる。

周溝は全周している。主柱穴はP1、2があり、西側、南側に向かってそれぞれ間仕切り溝がある。

カマドは北壁中央に位置する。排水溝によって破壊されているが、構築材とみられる石と土器、炭化面がみられる。



S B 12（西から）

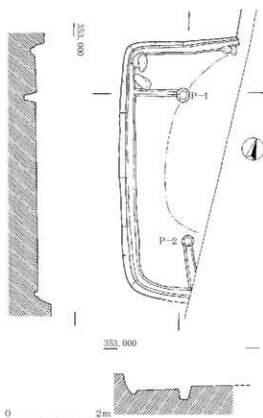


図21 S B 12実測図（S = 1 : 80）

SB15

遺構の北側を一部溝によってきられる他は良好な状態である。床面はしまりがないが、レキをほとんど含まず明瞭である。

遺構に伴う柱穴の検出はなかったが、東壁よりには浅く円形に掘り込まれた中に焼土・炭化物がある掘り込みが位置する。焼土の周辺には石が置かれ、出土土器は器台や坏などの古墳時代前期のものである。



SB15 (東から)

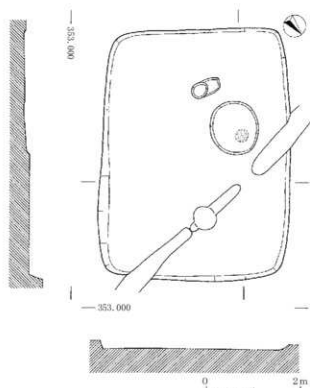


図22 SB15実測図 (S = 1 : 80)

SB16

遺構は東側を一部土坑によって切られる他は良好な状態である。

壁周溝は北壁で一部途切れるが、他はほぼ全体に掘られている。主柱穴はP1～P4の方形配列がみられる。この内、P4には柱材が遺存していた。

住居の北側と南側を中心に覆土中から、壁面から中央に向かう方向で炭化材が検出された。長さは40cm程で住居に伴う部材と考えられ、焼失住居の可能性が考慮される。

カマドは奥壁中央に位置する。両袖に石材を置いたもので、燃焼部上面に

は完形の土師器壺などがあり、正面には天井石を残す。このカマドを中心とした北側では特に土器の検出が多くみられた。坏や甕など器種は多様でほとんどが完形であった。周囲にある炭化材とはレベルをほぼ同じにしており土器と炭化材は住居内に意図的に置かれたものと考えられる。また覆土中からは、ミニチュア土器が出土しており住居の廃棄行為が行われたことがうかがわれる。



SB16土器、炭化材検出状況 (東から)

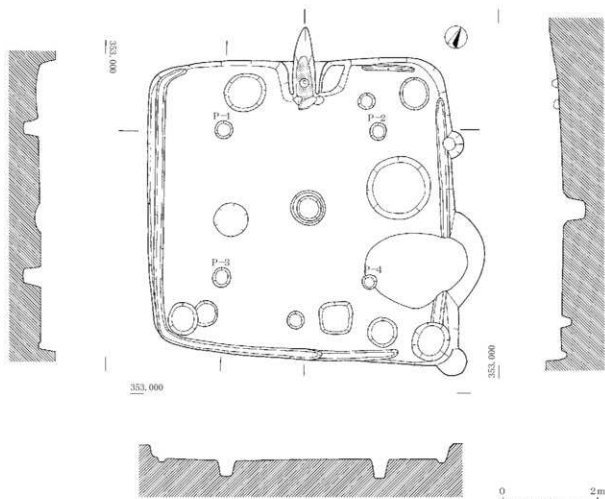


図23 SB16実測図 (S = 1 : 80)



SB16 (東から)

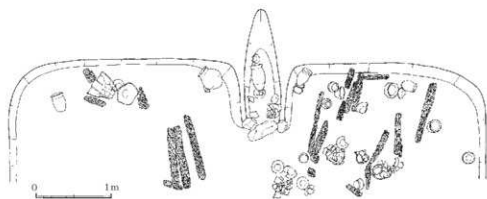


図24 SB16カマド周辺実測図 (S = 1 : 40)



SB16カマド



SB16カマド周辺

SB18

遺構は覆土中からレキが多く、床面は大変軟弱な状態である。検出面からの掘り込みは深い所で10cm弱、北側では3cm以下と浅い。

主柱穴はP 1～P 4の方形配列が考えられる。カマドは奥壁中央に位置し、粘土構築による袖の一部と石材の抜き取り痕と焼土面がみられるのみである。



SB18 (南西から)

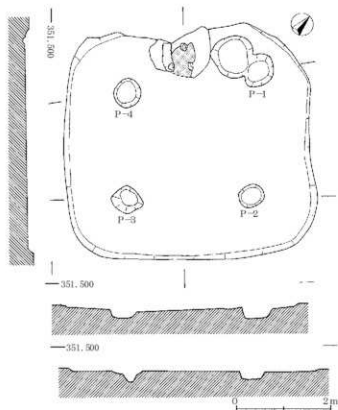


図25 SB18実測図 (S = 1 : 80)

SB19

遺構は切り合いなどがみられず良好な状態での検出である。床面は貼床がみられないものの硬く、緻密である。住居に伴う柱穴はP1～P7があり、P1～P4が主柱穴、P5、6が出入口施設に伴うものと考えられる。この内P3、4には礎石が残っていた。壁周溝は南西側に一部みられ、P7から壁面には間仕切り溝がある。また、カマドの左右に掘り込みがあり、周囲からの土器の出土も多く、何らかの施設であることが推測される。

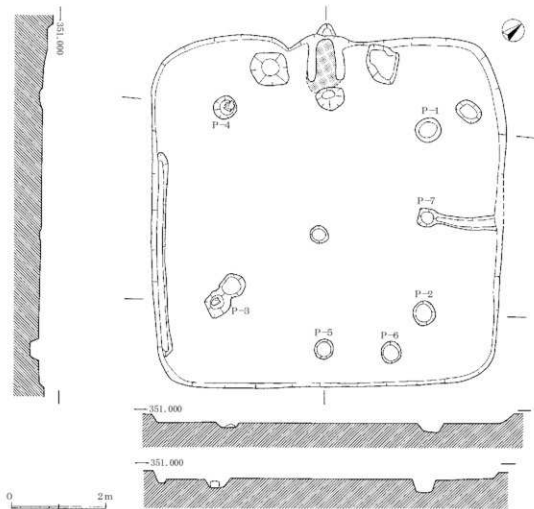


図26 SB19実測図 (S = 1 : 80)



SB19 (南東から)

・SB19 カマド

カマドは住居奥壁の中央に位置する。天井石、袖部、内部の土器が残る良好な状態である。

袖部石材は正面に20cm大の石が置かれ、以後は10cm大の石を2段に積んだものである。カマド中央には甕が横位で3個体分が置かれ、その下からは高さ10cmの石に土師器環を被せた支脚がある。燃焼部に焼土が、前面には硬化面がみられる。

カマド右側の掘り込みからも炭化物と土器があり、カマドに関連した施設が推測される。

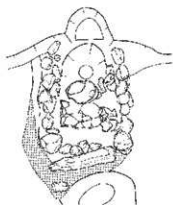


図27 SB19カマド
実測図 (S = 1 : 30)

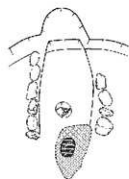


図28 SB19カマド
土器下面実測図
(S = 1 : 30)



SB19カマド



SB19土器、石材上部取り外し後

SB21

調査区の設定により、遺構の東側23を先に、後から残り西側の調査を行った。遺構は重機による表土除去の時点から土器の出土がみられはじめた状態で、全体の規模を把握することはできたものの、検出面からの掘り込みは5cmと特に北側では明確な壁面の確認には至らなかった。

住居は中央を2条の溝とトレンチによって切られている。

床面は覆土中からレキを多く含んでおり、覆土との色調の違いから判断したもので、不明瞭な状態である。

住居に伴うと考えられる柱穴にはP1～P3がある。位置から支柱穴と推測されるが、P2からは割られた状態の甕1個体分が出土し、P3では焼けた板状の石が入っていた。特にP3については、炉施設としての可能性が考えられるものである。



SB21 (北東から)

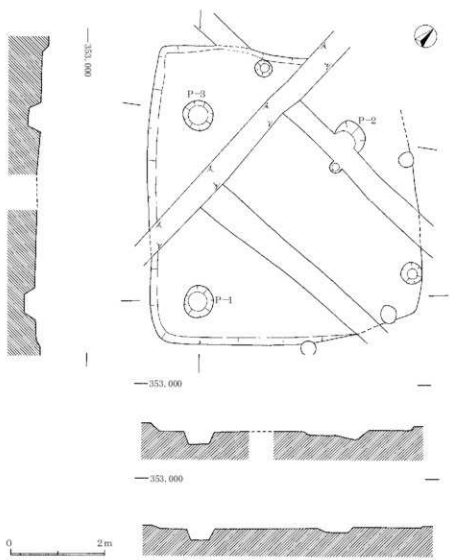


図29 SB21実測図 (S = 1 : 80)

SB22

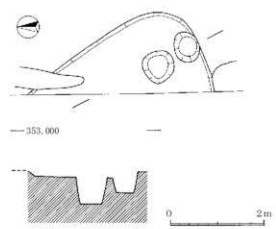


図30 SB22実測図 (S = 1 : 80)



SB22 (東から)

SB23

西側が一部調査区外にかかる。遺構は南側に行くにしたがい検出がなくなったため、全体の半分程となった。検出面からの掘り込みは一番深い南側で8cm、床面はレキを含み軟弱である。また、住居北東寄りには炭化面の拡がりや炭化材が少量みられた。

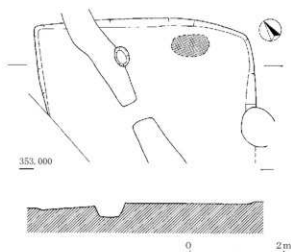


図31 SB23実測図 (S = 1 : 80)



SB23 (南西から)

平安時代

SB11

遺構のほぼ中央を土坑によって切れ、北側が調査区外にかかっての検出である。壁面の明確な検出は僅かで、カマドの検出はなく、覆土中の土器より遺構の時期を決定したものである。

P1が主柱穴として考えられ、住居北西側、中央よりのやや奥まった位置に、半分のみの検出ではあるが、炭化物がみられる。



SB11 (南東から)

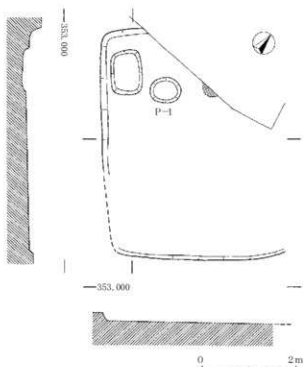


図32 SB11実測図 (S = 1 : 80)

SB17

平面形はややゆがんだ長方形を呈する。床面はレキを含み不明瞭である。

住居に伴う柱穴はP1～P3があり、この内P1・2が主柱穴の可能性が考えられるが、住居西側での柱穴の検出はなかった。

カマドは左隣に位置する。炭化面と石材の抜き取り痕と浮いた状態の石がみられるのみである。



SB17 (北から)

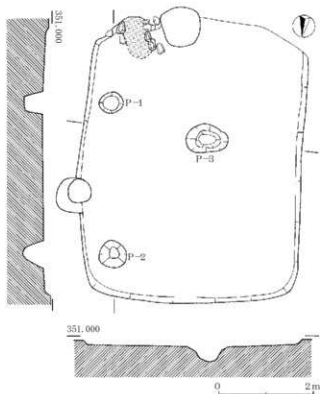


図33 SB17実測図 (S = 1 : 80)

SB20

平面正方形を呈する。隅をトレンチに、中央を土坑によって切られる。床面はレキを含み軟弱である。

住居に伴う柱穴としてはP1, 2が考えられるが、住居東側での検出は見られなかった。



SB20 (北西から)

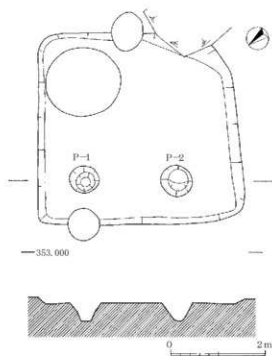


図34 SB20実測図 (1 : 80)



B区古墳時代住居、土坑（北西から）

2 土坑

SK93

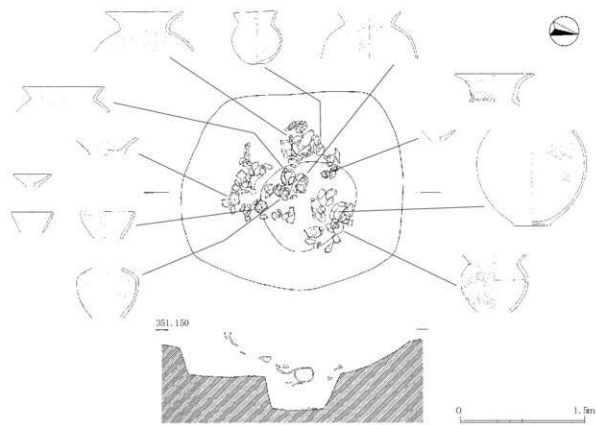


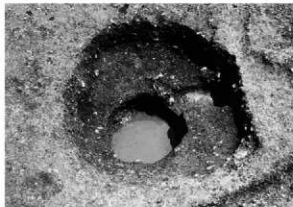
图35 SK93実測図 (S = 1 : 30) (土器、S = 1 : 8)

径1mの円形の掘り込みである。検出の時点より土器と石が見え始めており、掘り込み内の広い範囲に渡るものであった。地山のレキ層を掘り込んでおり、一部壁面が判然としなかったが、2段に掘り込まれたものである。

土器は主に検出面から2段目の上部までみられる。土器の下からは湧水がみられ始め、形態からも井戸であることが推測される。土器は形を残してはいるが石と一緒に入れられていたため、多くは潰れた状態であった。土器と石は廃棄時に一度に入れられたものと考えられる。



SK93土器検出（北から）



S K93（北から）

SK95

平面は隅丸方形を呈する。遺構は調査区外へと延びているため、半分ほどの検出となった。検出面から10cm程度の深さで、全体にゆるい舟底状に掘り込まれている。

遺構内にはほぼ完形の土器が散らばった状態で検出された。器台や小型甕を中心とし、いずれも床面に付いた状態であったことから、意図的に置かれたものと判断される。遺構に伴うピットの中には小型甕が入っているもの（P1）がみられた。



S K95（東から）

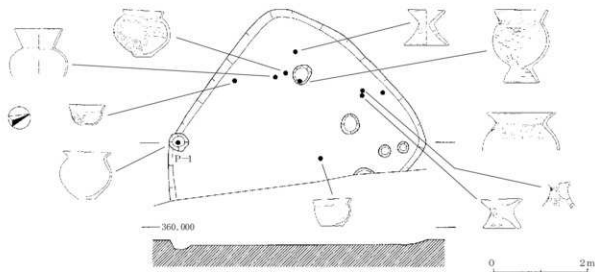


図36 SK95実測図（S=1:80）（土器、S=1:8）

SK7・8

成人（SK8）と幼児（SK7）の土坑墓である。2墓は隣接した位置にあり、頭位をほぼ同じ方向（北）に向けている。

SK8は、長辺185cmの隅丸長方形の掘り込みである。人骨が1体分検出され、頭部の脳に後世の柱穴が掘られているのと、足首の部分に溝によって切られる他は良好な状態であった。仰臥伸展葬で、木棺などの痕跡はみられない。

SK7は楕円に近い長方形の掘り込みである。人骨は1体分、横位の屈葬である。副葬品とみられる鹿角の加工品が1点ある。

人骨は検出時、大体の形態は残していたが、骨自体は大変脆い状態であった。

SK7・8は、位置や頭位から同時期のものと考えられ、切り合いと覆土中の土器片から、平安時代のものと考えられる。



SK7、8（南から）

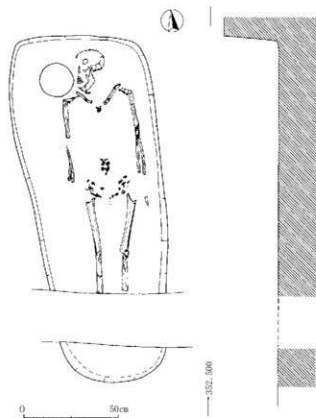


図37 SK8実測図（S=1:20）



SK8（南から）

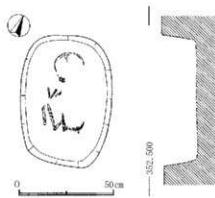


図38 SK7実測図 (S=1:20)



SK7 (南から)

ウシ埋納土坑

平面長方形を呈する。南側隅を土坑によって切られる他は良好な状態である。

土坑北隅にウシの下顎骨が横に並べられた状態で検出された。1個体分の下顎骨を左右に分けてから並べており、意図的に置かれたものと判断される。土坑中からはウシの下顎骨以外の遺物の検出はみられなかった。

時期は平安時代と推測され、ウシの下顎の骨のみを改めて土坑内に埋納したものである。

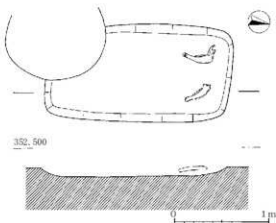


図39 ウシ埋納土坑実測図 (S=1/40)



ウシ埋納土坑 (南から)



土坑内獣骨 (東から)

3 掘立柱建物

掘立柱建物は3軒の検出があった。この内ST1とST2は隣接した位置にある。ST1・2が3×1間、ST3が4×3間の規模で、主軸はST1が東、ST2が北、ST3が北東方向に取る。柱穴は柱根はみられず、検出面からはおよそ30～50cmの深さがある。

時期は、ST1・2は出土土器と周辺の遺構との切り合いから平安時代と考えられるが、ST3については遺構の位置などから古墳時代以降と推測することとなる。



ST1 (南西から)



ST2 (南から)



ST3 (北東から)

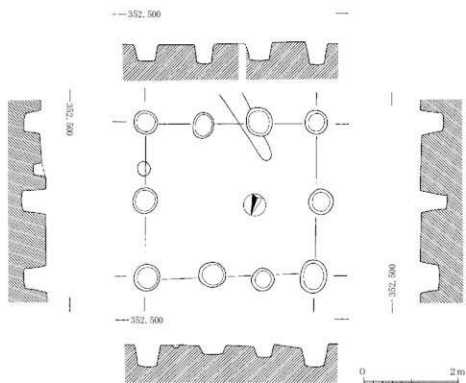


図40 ST1実測図 (S=1:80)

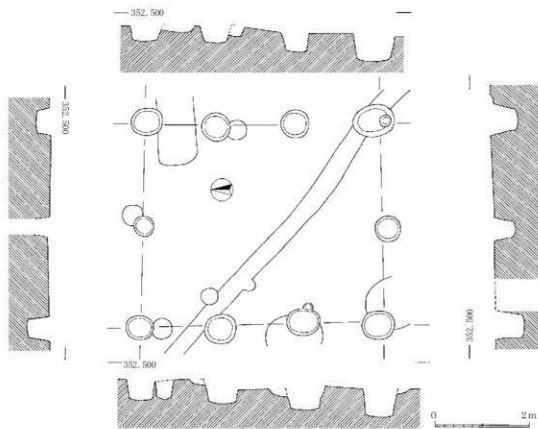


图41 ST 2实测图 (S = 1 : 80)

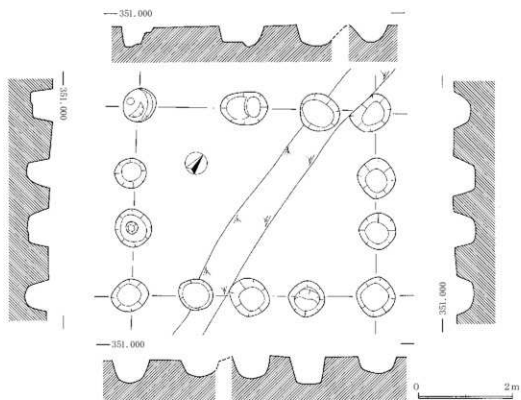


图42 ST 3实测图 (S = 1 : 80)

4 井戸

遺跡内で検出した土坑の内、井戸として確認したものは全部で16基である。検出面からの掘り込みは170cm～60cmで、いずれも掘り下げている時点から湧水がみられ、遺跡全体での湧水点が高いことがわかる。この内、上部周辺や底部に石材又は木材がみられるものもあるが、後に投げ込まれたことがうかがわれるものが多い。

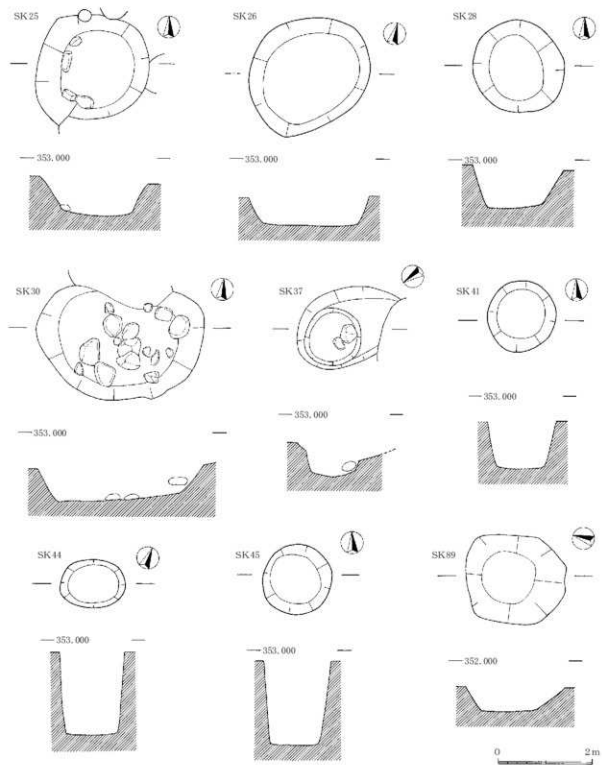


図43 井戸実測図① (S = 1 : 80)

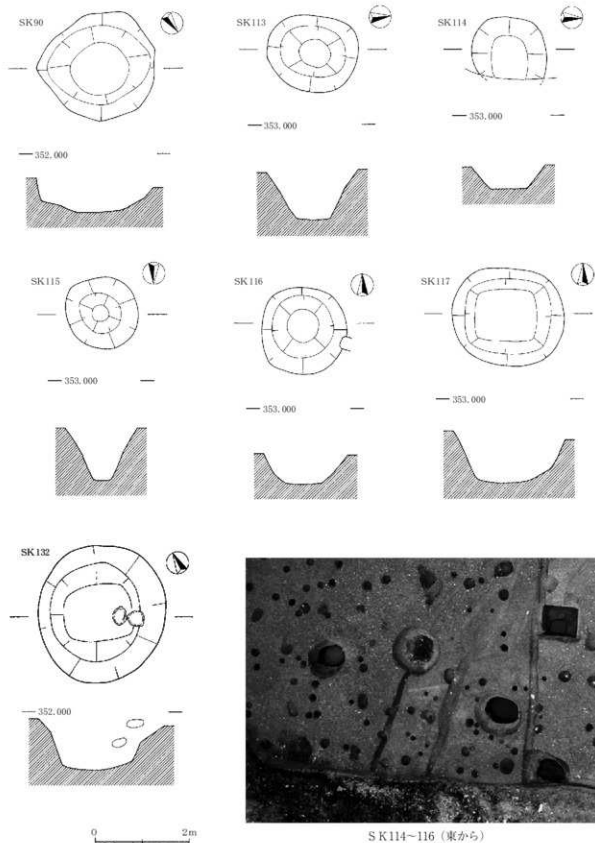
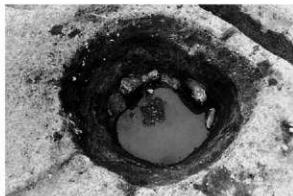


図44 井戸実測図 (S = 1 : 80)



S K25



S K28



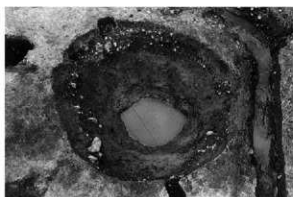
S K30



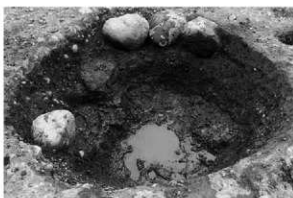
S K44



S K45



S K89



S K117



S K132

5 溝

SD34

南北方向に伸び、南側は調査区外となる。遺構中程が外側へふくらむ不整形な形を呈する。

壁面が明瞭であったのに対して底面ははっきりとせず、覆土の色調が変化した時点で一旦底面とした(SD34上面)。覆土中からは、完形の環や青銅製の蝶番、ウマの下顎骨が出土している。

グリッド(C区-2)によって遺構周辺を掘り下げた際、下面に続く検出があった。上面よりは北側がやや短くなり、平面形は歪んでいる。底面は凹凸があり、礎石とみられる石材の検出があった。下面検出から底部までの深さは約24cm、上面からの深さは90cmを測る。

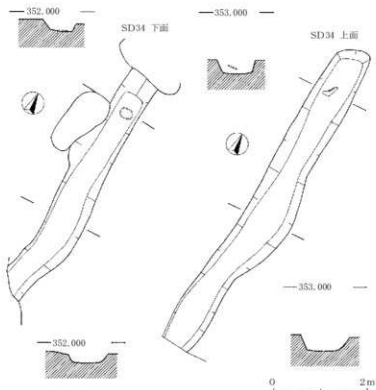


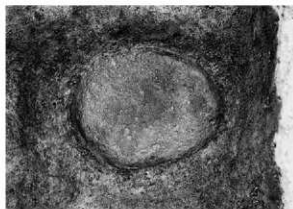
図45 SD34実測図 (S = 1 : 80)



SD34 (下面) (北から)



SD34 (上面) (南から)



SD34礎石



SD34獣骨

6 性格不明遺構

SX7

南北方向に伸び、北側は調査区外となる。平面形は不整の楕円形を呈する。

掘り込みは大きく2段に掘り込まれ、底面はゆるい舟底状を呈し、検出面からの深さは約45cmを測る。

2段目の上部縁辺を中心として10～30cm大の河原石と角礫、土器がみられる。さらに底部には定形の坏や長頸甕がみられる。土器、石共に遺構の底部と接しているものが多い。

底部には径1m、深さ50cm程の円形の掘り込みがみられる。なお、この中からの土器の出土はみられなかった。

南北方向での断面から、調査区外となる北側の底部は円形の土坑の辺りから立ち上がることが推測され、遺構の底部と円形土坑からは湧水がある。土器・石は共に意図的に入れられたことがうかがわれるが、遺構の性格について明確にはし得ない。

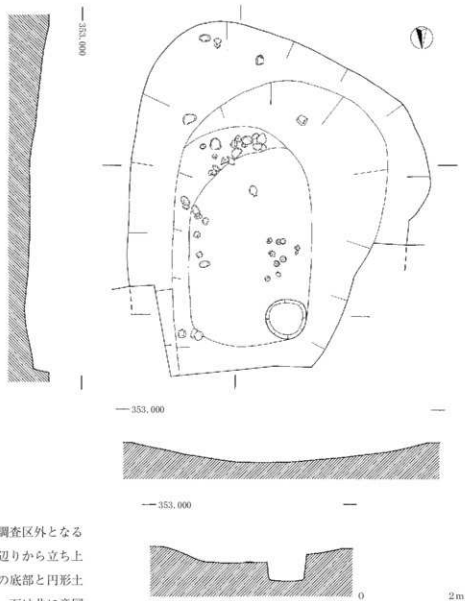


図46 SX7実測図 (S = 1 : 80)



SX7 (北から)



SX7土器・石 (北から)

(I) 住居址

表1 遺構一覧表

区	遺構名	時期	平面形態	規模(m)	主軸	検出率	炉/カマド	備考	図版
A	1号住居 (S B 1)	古墳 (中期)	隅丸方形	4.6×4.2	N25° W	完	地床炉	主柱穴 (4) 土器埋納ビット	図-13
A	2号住居 (S B 2)	古墳 (中期)	隅丸方形	5.7×4.8	N15° W	1/3		主柱穴 (1)	図-14
A	3号住居 (S B 3)	古墳 (中期)	隅丸方形?	-	-	1/5			-
A	4号住居 (S B 4)	古墳 (中期)	隅丸方形	4.9×4.6	N34° W	完	カマド		図-14
A	5号住居 (S B 5)	古墳 (中期)	方形	4.8×5.0	N32° W	完	(焼土面)	主柱穴 (3)	図-15
A	6号住居 (S B 6)	古墳 (中期)	方形	-×5.8	N38° W	1/3			図-16
A	7号住居 (S B 7)	古墳 (中期)	方形	4.8×-	N32° W	1/3	地床炉	主柱穴 (3)、周溝	図-17
A	8号住居 (S B 8)	古墳 (後期)	方形	4.5×4.7	N30° W	完	カマド	主柱穴 (4)	図-18
A	9号住居 (S B 9)	古墳 (後期)	隅丸方形	4.4×4.6	N62° W	完	カマド	主柱穴 (4)、周溝、	図-19
A	10号住居 (S B 10)	古墳 (後期)	隅丸方形	6.0×6.2	N45° W	完	カマド	主柱穴 (4)、周溝 ベット状遺構	図-20
A	11号住居 (S B 11)	平安	方形	-	N43° W	1/3	(焼土面)		図-32
A	12号住居 (S B 12)	古墳 (後期)	方形	5.4×-	N18° W	1/3	カマド	周溝	図-21
A	(S B 13) (欠番)	-	-	-	-	-	-	-	-
A	(S B 14) (欠番)	-	-	-	-	-	-	-	-
A	15号住居 (S B 15)	古墳 (前期)	隅丸長方形	5.3×4.0	N42° W	完	焼土/炭化物 (住居以外の遺構の可能性あり)		図-22
A	16号住居 (S B 16)	古墳 (後期)	隅丸方形	6.4×6.5	N27° W	完	カマド	主柱穴 (4)、周溝 炭化材	図-23・24
B	17号住居 (S B 17)	平安	隅丸長方形	6.2×5.6	S9° E	完	カマド		図-33
B	18号住居 (S B 18)	古墳 (後期)	隅丸方形	4.8×5.0	N43° W	完	カマド	主柱穴 (4)	図-25
B	19号住居 (S B 19)	古墳 (後期)	隅丸方形	7.4×7.4	N42° W	完	カマド	主柱穴 (4) (内2箇所に礎石)	図-26・27・28
C	20号住居 S B 20	平安	正方形	2.1×2.1	N35° W	4/5			図-34
C	21号住居 S B 21	古墳 (中期)	長方形?	6.2×5.7	N47° W	2/3	(炉)	土器埋納ビット	図-29
C	22号住居 S B 22	古墳 (中期)	隅丸方形	-	-	1/5		柱穴	図-30
C	23号住居 S B 23	古墳 (中期)	方形?	-×2.3	N36° W	1/2	(炭化面)		図-31

(2) 土坑

区	遺構名	種別	時期	平面形態	規模(m)	主軸	検出率	備考	図版
B	93号土坑 (S K93)	土器廃棄	古墳 (前期)	円形	2.7× - ×0.82	N27° E	完	井戸	図-35
B	95号土坑 (S K95)	土器埋納	古墳 (前期)	隅丸長方形	4.4× - ×0.95		1/2		図-36
A	7号土坑 (S K7)	土坑墓	平安	長方形	0.7×0.4×0.18	N27° W	完	幼児屈葬	図-38
A	8号土坑 (S K8)	土坑墓	平安	楕円形	1.8×0.7×0.29	N6° W	完	成人伸葬	図-37
A	ウツ磨土坑	獣骨埋納	平安	長方形	2.0×1.0×0.1	N10° W	完	下顎1個体分	図-39
A	25号土坑 (S K25)	井戸	平安	円形	2.3×2.2×0.68		完	底部に河原石	図-43
A	26号土坑 (S K26)	井戸	平安	円形	2.7×2.1×0.6		完		図-43
A	28号土坑 (S K28)	井戸	平安	円形	2.0×2.0×0.92		完		図-43
A	30号土坑 (S K30)	井戸	平安	楕円形	3.5×2.4×0.72		完	上面～底部に石	図-43
A	37号土坑 (S K37)	井戸	平安	円形	1.2×1.3×0.72		完	上面石	図-43
A	41号土坑 (S K41)	井戸	平安	円形	1.5×1.4×1.0		完		図-43
A	44号土坑 (S K44)	井戸	平安	楕円形	1.4×1.0×1.76		完		図-43
A	45号土坑 (S K45)	井戸	平安	円形	1.5×1.5×1.76		完	底部木材	図-43
B	89号土坑 (S K89)	井戸	平安	円形	2.1×1.8×0.52		完		図-43
B	90号土坑 (S K90)	井戸	平安	楕円形	2.5×2.2×0.72		完		図-44
C	113号土坑 (S K113)	井戸	平安	楕円形	1.9×1.6×0.88		完	覆土中砥石	図-44
C	114号土坑 (S K114)	井戸	平安	円形	1.6× - ×0.52		完		図-44
C	115号土坑 (S K115)	井戸	平安	円形	1.6×1.5×1.1		完		図-44
C	116号土坑 (S K116)	井戸	平安	円形	1.8×1.7×0.64		完		図-44
C	117号土坑 (S K117)	井戸	平安	楕円形	2.4×2.0×1.08		完	上面石	図-44
C	132号土坑 (S K132)	井戸	平安	円形	2.9×2.7×1.12		完	上面石 底部木材・須恵器甕	図-44

(3) 掘立柱建物

区	遺構名	時期	規模		主軸	検出率	備考	図版
			間	桁×梁(m)				
A	1号掘立柱建物 (S T1)	平安	3×2	3.6×3.3	N23° W	完		図-40
A	2号掘立柱建物 (S T2)	平安	3×2	5.0×4.2	N88° E	完	中央を溝に切られる	図-41
B	3号掘立柱建物 (S T3)	平安(?)	4×3	5.2×4.4	N44° E	完		図-42

第2節 遺物

1 土器

弥生時代

当該期の遺構は見られないが、検出面および覆土中より破片の出土がある。赤彩のあるものが占めており、後期に比定される。また北陸系土器（図48-36）の出土がある。

古墳時代

本調査では古墳時代の遺構は性格が明確であり、それに伴う土器も多く出土した。また、土坑および住居から一括して出土したものがみられる。前期は土坑からの、中・後期は住居からの出土である。この内、比較的まとまった出土がみられた遺構から、本遺跡での様相についてまとめる。

SK71（図47-7~11）台付甕、鉢、壺、器台がある。台付甕は口縁がやや外反し、胴部上半に最大径をもつ。壺は有段口縁で、口縁部段部に刻みのあるものと頸部に隆帯をもつものがある。器台は受部が屈折し脚部は穿孔のあるハの字に広がった中空のものである。

SK93（図47-12~19）壺、甕、小型壺、器台がある。壺は頸部に刻みの施された隆帯をもつ。甕は丸胴でハケ調整を基本とした口縁が短く外反したくの字型のものと、口縁部が長く外反する小型のものがある。器台は受部が小さい椀状を呈する。受部のみと穿孔のある脚部の一部のみであるが、いずれも中空である。

SK95（図48-20~35）甕、小型台付甕、小型丸底土器、有段口縁壺がある。甕は小型のもので、口縁が短く立ち上がるものと外反するもの、頸部が長く伸び口縁部が外反するものがある。小型丸底土器は口縁部と胴部の高さがほぼ同じで口縁が緩く外反するものと、これとはほぼ同じ大きさの平底で口縁部が短く外反するものがある。器台は受部が椀状の中空のもの、穿孔のある中実の脚部と中実のX字型のものがある。有段口縁壺は口縁部段部に刻みが施される。

SB21（図57-149~158）坏、高坏、甕がある。高坏は完形のものはないが、坏部は外面下部に段を持つもの、外に向かって開く椀状のもの、半球形で口縁部が外反するものが、脚部はハの字に開くものと坏接合部から下部にかけて膨らみ、裾部が水平に広がるものである。

SB16（図53-98・99、図54・55、図56-137・138・140）坏、壺、甕、瓶、須恵器があり、遺構の中では出土量が最も多い。坏は、a：半球形の胴部に口縁部が強く外反するもの、b：aより底部が平坦化するもの、c：口縁部が上方を向き箱型となり、底部と一体化したもの、d：半球形を呈し、口縁部が上方を向くもの、の4つに分けられ、このうちa～cでは内面黒色処理がされたものがある。瓶は牛角状の把手のついたバケツ状の底のない大型のものと底面穿孔の中型のもの、甕は内外面ハケ調整の長胴甕と中型のものがある。須恵器は短頸壺で頸部が外反し、調整は回転ナデ、底部が回転ヘラケズリのもので陶器編年Ⅱ形式2段階に相当するものである。

土坑出土のものでは、小型精製土器の出土が特徴である。器台では受部が屈折した精製のものから、最終段階である粗製のX字型のものまでが、またやや粗製の小型罎までがみられる。他には有段口縁壺を持ち、台付甕は口縁が外反したものであり、ここでの他地域からの搬入土器はみられず、畿内布留式土器の影響を受けたものととらえられる。

住居出土のものは、SB16と同じ様相を示すものにSB8（図51）、SB5（図49-49~51、図50-52~56）が

挙げられる。また、SB7（図50-58-62）、SB9（図52-78-83）では坏は半球形の口縁部が外反し、内面に稜を持つもので、このうち少数ながら黒色処理がされたものがある。また、甌は口縁が外反し胴部にやや丸みのある牛角状把手を持ったものがみられる。本遺跡においては、SB9段階からカマドおよび付随する遺物がみられ始め、SB7からは明確な黒色土器の使用がみられ始める。これよりも早い時期はSB21とSB2・3（図49-44-48）がある。SB2・3は甌ではあるが、甌において、口縁がくの字に外反した丸胴のもの（図53-97）からSB2・3例を経て長胴化する様子が看取される。住居は古墳時代中期、5世紀後半から後期6世紀中葉を中心として6世紀後半まで営まれたものと考えられる。

奈良・平安時代

この時期の遺構は土坑などの検出は多くあったものの性格が明確なものは少ない。土器の出土は検出面からのものが多い。また、遺構の内性格不明遺構からはまとまって出土している。

須恵器、土師器、灰釉・緑釉陶器が出土している。土師器は坏、碗、皿、盤、甕、壺があり、中でも坏の出土量が多く、そのほとんどがロクロ調整で底面回転糸切りのものである。黒色土器は、暗文のある例（図66-451）もあるが他は明確なミガキがみられないものが多い。須恵器は坏、壺、蓋坏、すり鉢、横瓶、その他破片で大甕がある。蓋坏は8世紀後半、横瓶は9世紀前半に比定される。

灰釉陶器は器形に分かるもので碗・皿・段皿が出土しており、図61-261、図63-309・310・311、図64-365が美濃大原2号様式、図66-457が丸行2号様式に比定され、緑釉陶器は碗のみで虎渓山1号窯式段階とみられる（図66-460）。

文字資料は7点あり、坏6点（須恵器5・土師器（黒色土器）1）の墨書と小型壺1点（図64-369）の線刻である。文字は「伏」「人」「兀」「虫」「平」「本」（線刻）がみられる。また、須恵器坏を転用した硯（図64-366）は坏部を打ち欠き底面を使用したものである。

この他、青磁とみられる破片（写真のみ）がある。土坑や検出面からの出土であるが器種や時期などについては明確にし得ない状態である。

土器の遺構からの出土は、土坑が性格不明遺構に限られている。このため、器種は坏や碗を中心としたもので種類に乏しいものであった。この中で、遺構の中で比較的量が多くの灰釉陶器を伴うSX7（図64-340-370）を例にみると、坏、碗、長頸壺、小型壺・甕、転用硯がある。坏は須恵器が2点、他は土師器でその半数近くを黒色土器が占めている。口径は11-13cm、器高4cm前後のものが多く、次いで口径15cm、器高が5cm程のものがみられる。小型壺は文字の線刻があるもの。また長頸壺は口縁部のみを欠く状態で焼きが甘く全体に赤色を呈する。灰釉陶器は碗と壺があり、壺の方は明確でないが碗が大原2号様式であることから、遺構は10世紀前半に比定される。

以上のように今回は特に灰釉陶器・緑釉陶器によりおおまかな年代をみる事ができた。灰釉・緑釉陶器からは10世紀前半から11世紀後半までの時期が、また須恵器からは8世紀代から9世紀までの時期が考えられるものである。

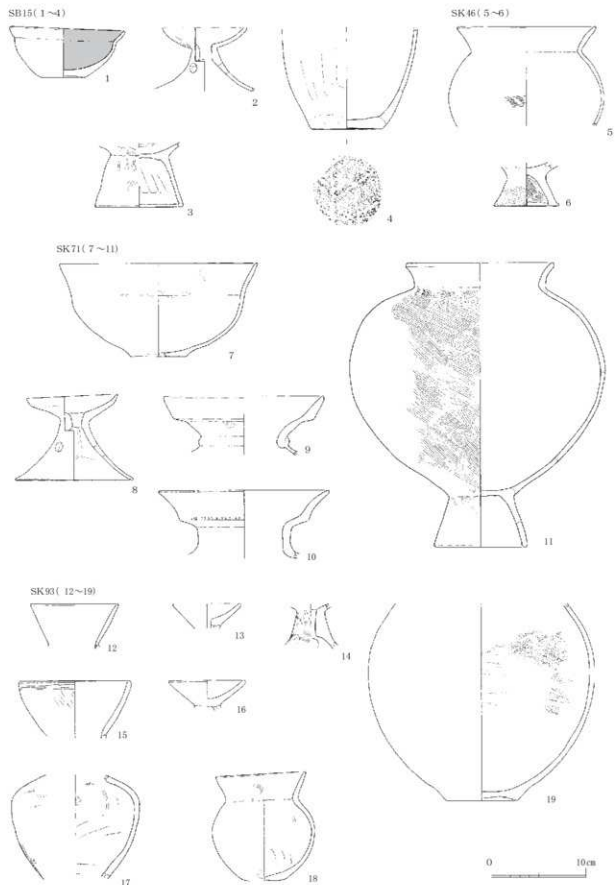


图47 土器実測図①(S=1:4)

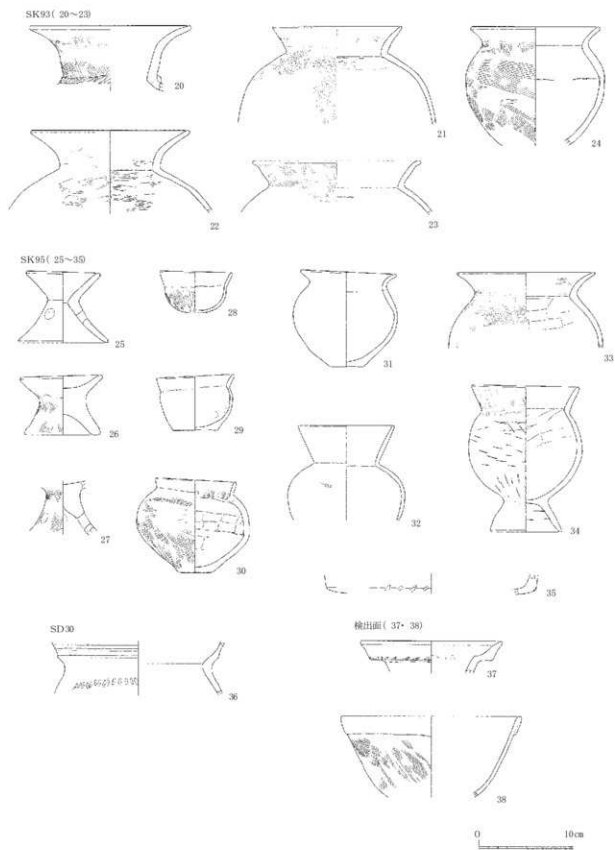


图48 土器実測图②(S=1:4)

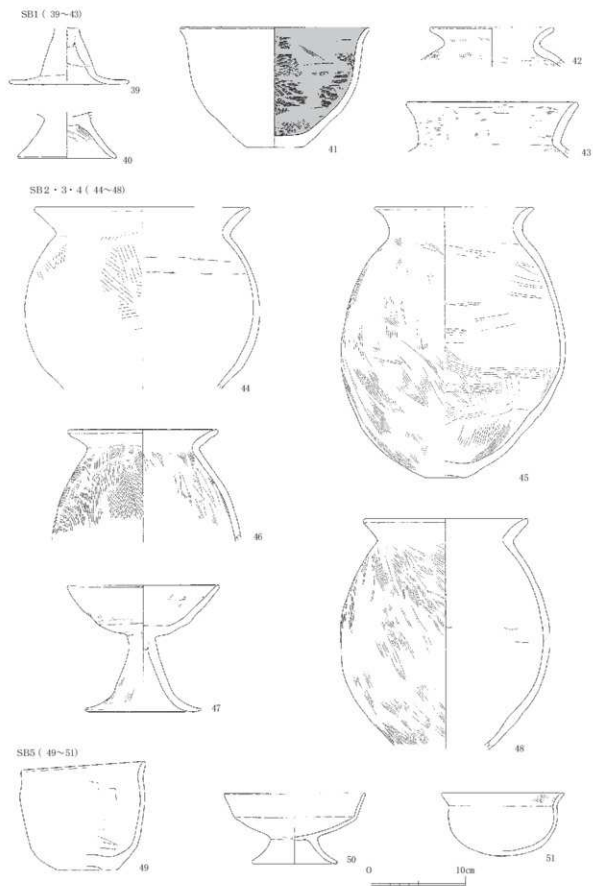
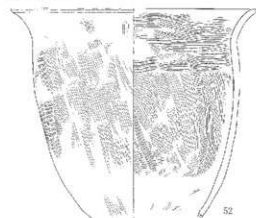
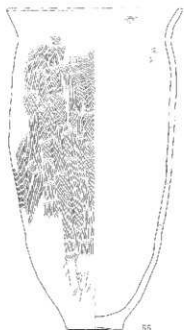


图49 土器実測図③ (S = 1 : 4)

SB5 (52~56)



52



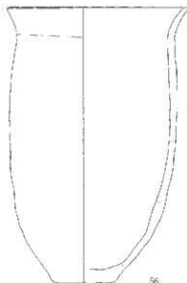
55



53



54



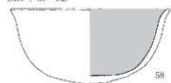
56

SB6



57

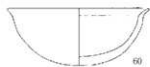
SB7 (58~62)



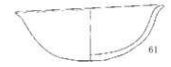
58



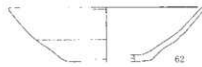
59



60



61



62

0

10cm

圖50 土器実測図④ (S = 1 : 4)

SBR (63~77)

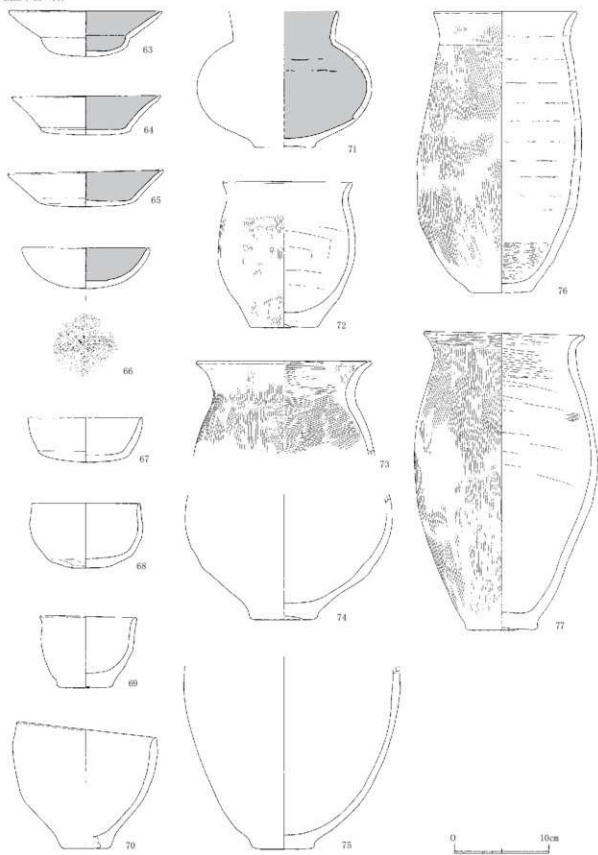


图51 土器実測图⑤ (S = 1 : 4)

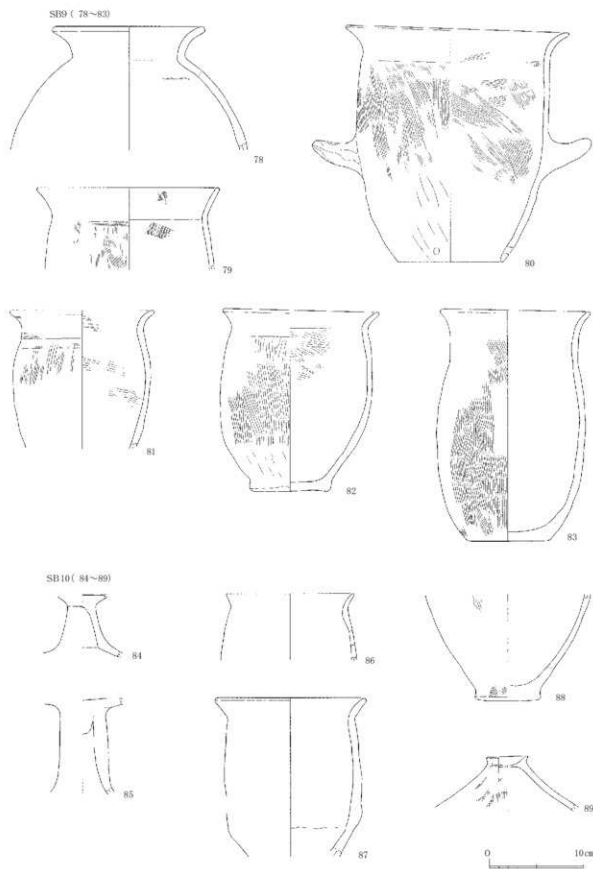


图52 土器実測図⑥ (S = 1 : 4)

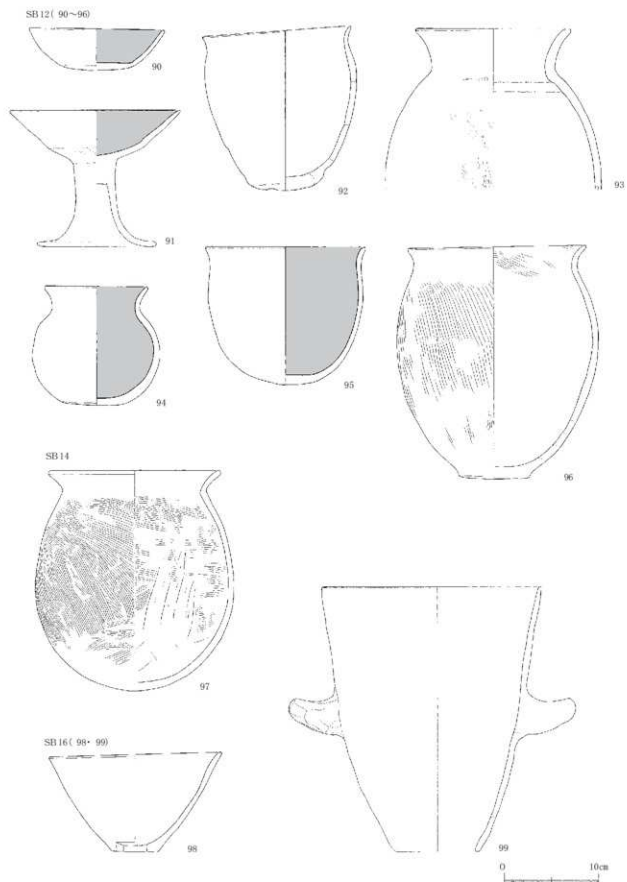


圖53 土器実測圖⑦ (S = 1 : 4)

SB16(100~125)

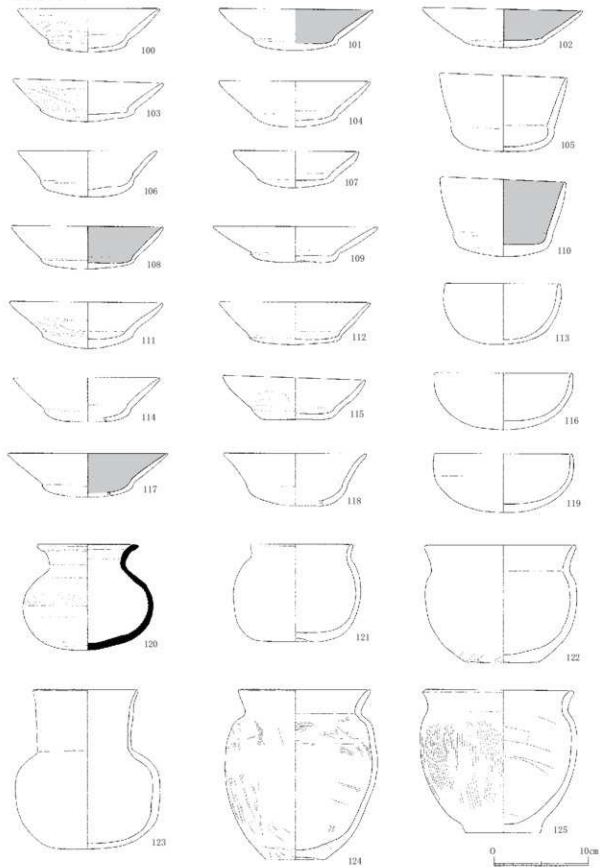


图54 土器実測図⑧ (S = 1 : 4)

SB16(126~136)

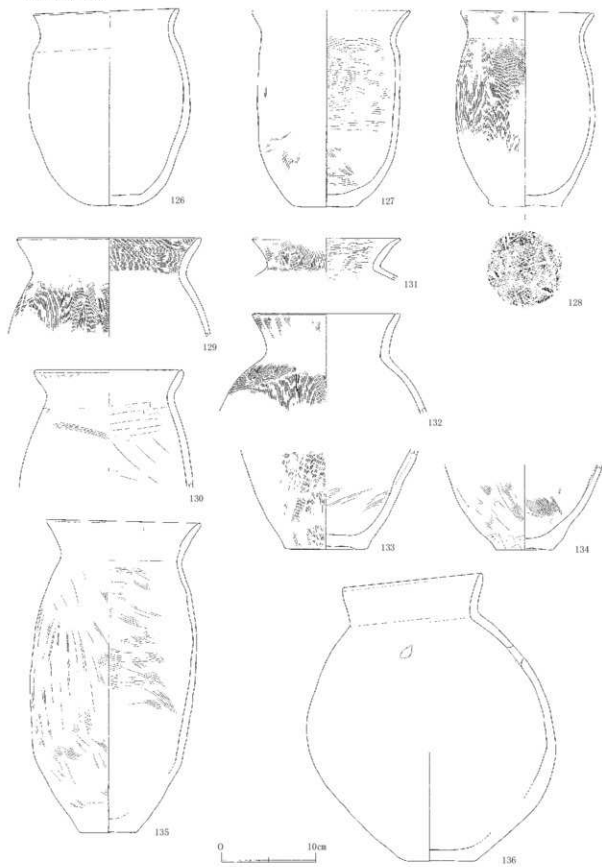


图55 土器実測図⑨(S=1:4)

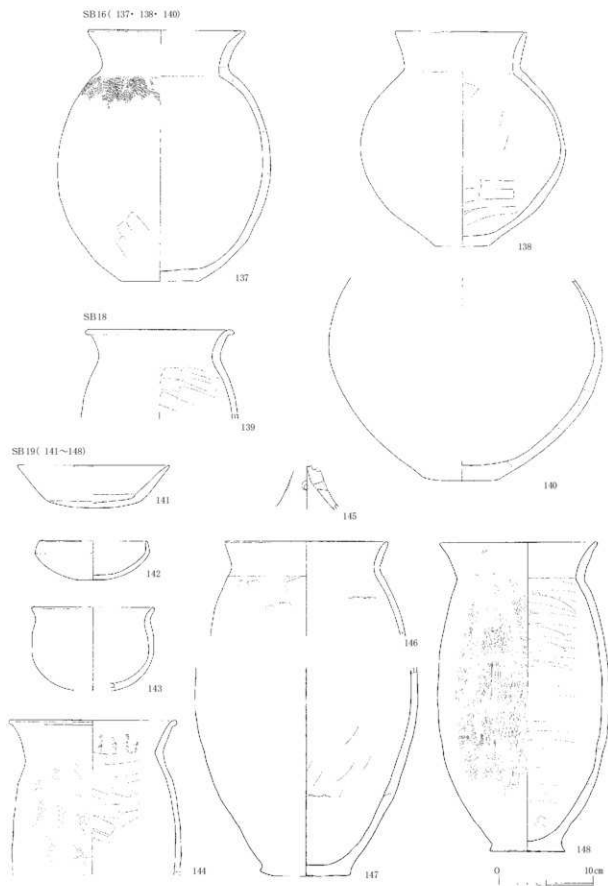


图56 土器実測図⑩ (S = 1 : 4)

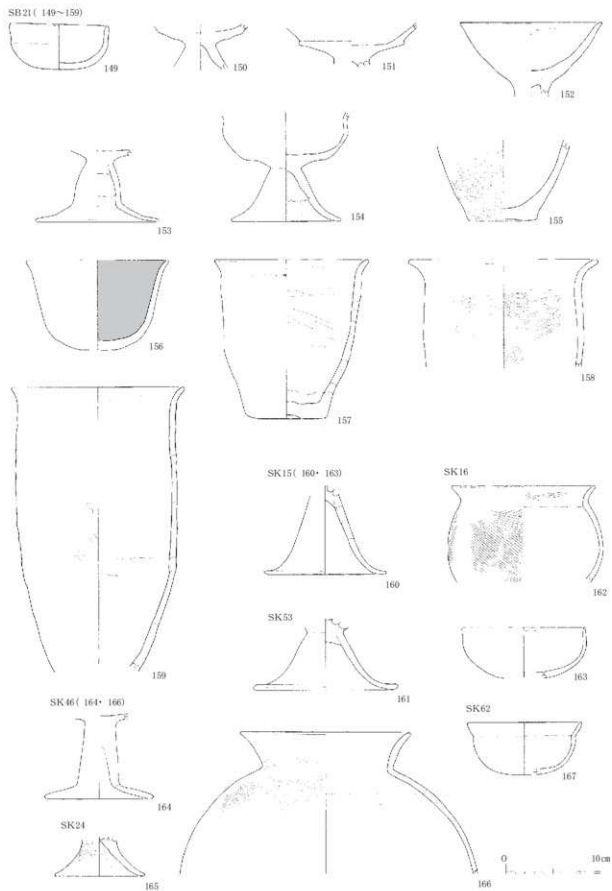


图57 土器实测图(1) (S = 1 : 4)

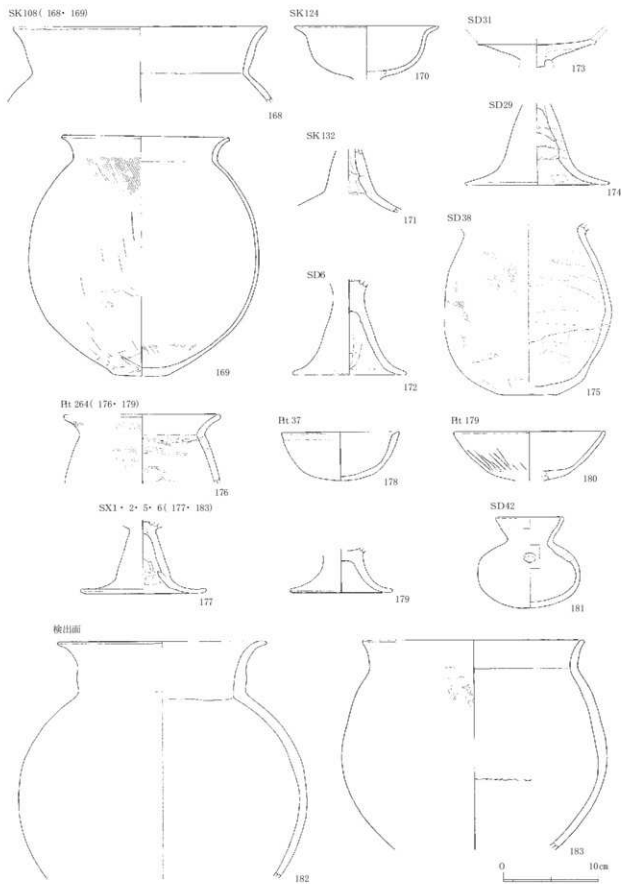


圖58 土器実測図② (S = 1 : 4)

包含層・検出面(184~204)

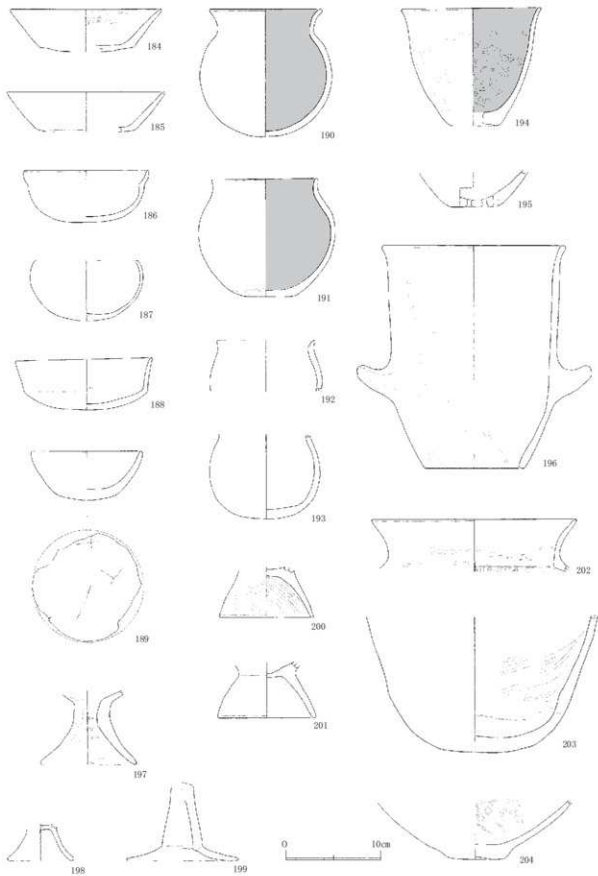


図59 土器実測図誌(S=1:4)

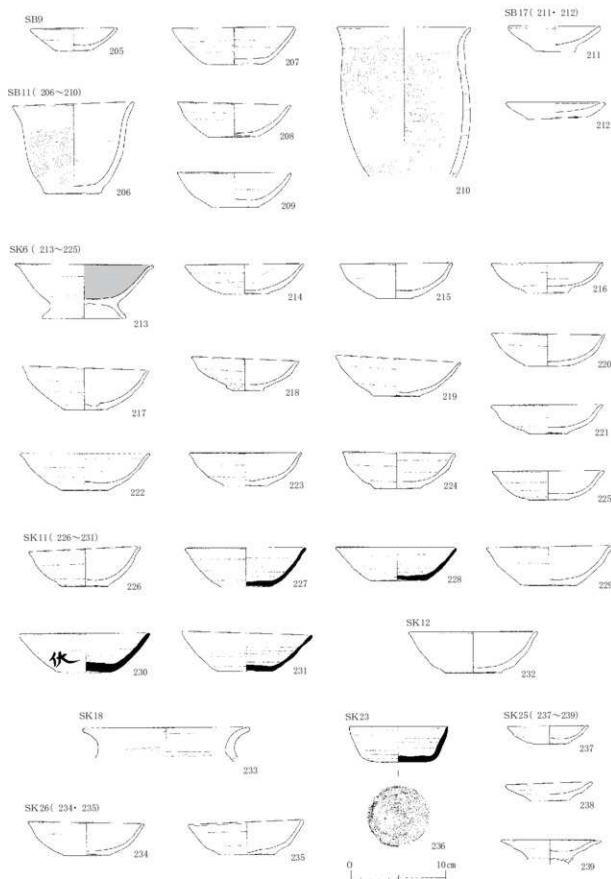


图60 土器实测图(S = 1 : 4)

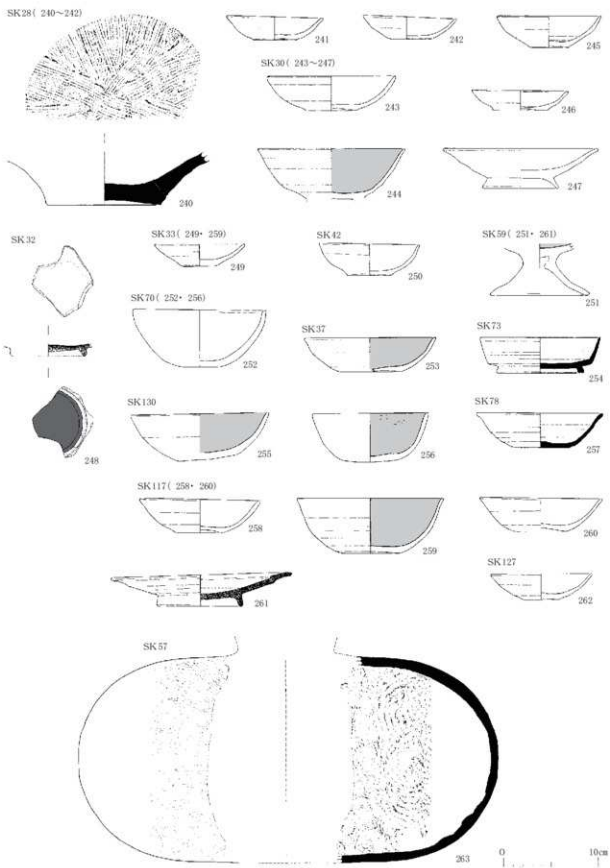


图61 土器实测图⑤ (S = 1 : 4)

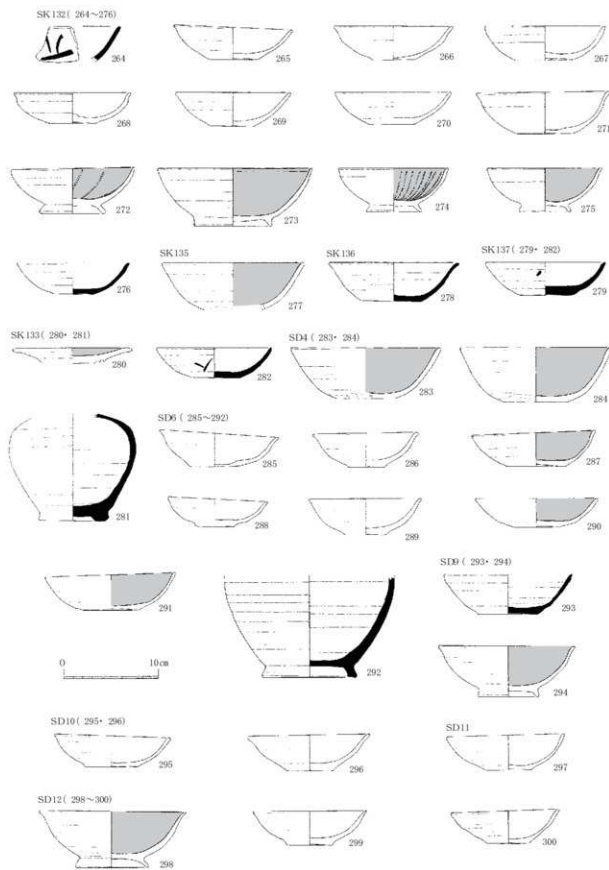


图62 土器实测图说 (S = 1 : 4)

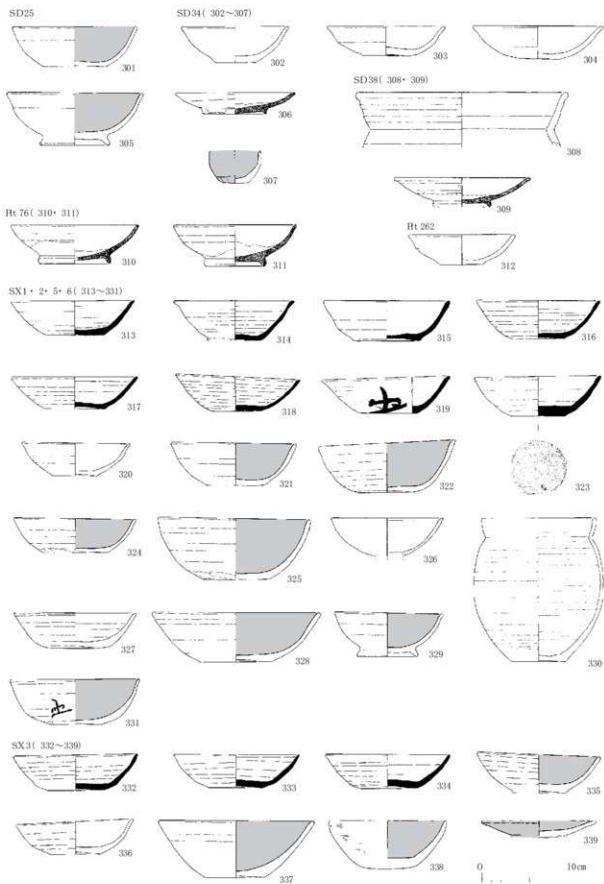
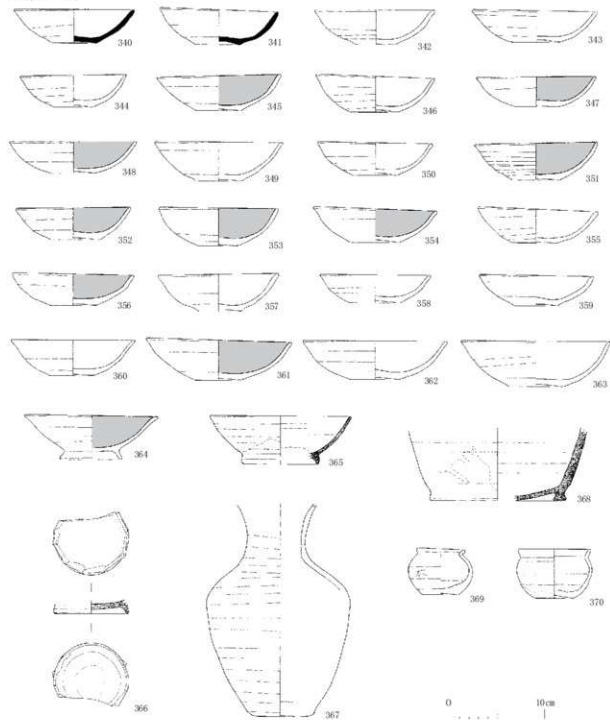


图63 土器实测图④ (S = 1 : 4)

SX7 (340~370)



横出面 (371~376)



图64 土器实测图录 (S = 1 : 4)

検出面(377~432)

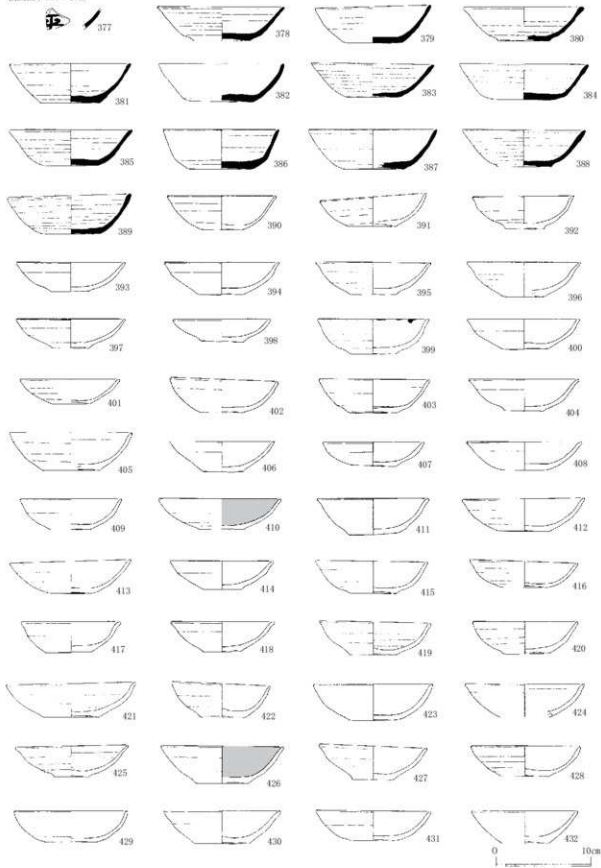


図65 土器実測図⑨ (S = 1 : 4)

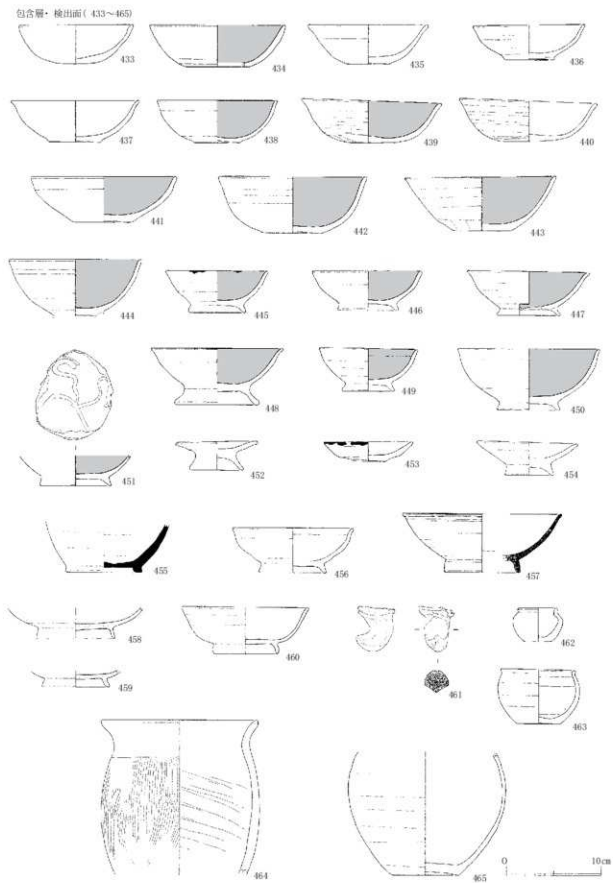


図66 土器実測図② (S = 1 : 4)

表2 土器観察表

No.	出土位置	種別	器種	遺存状況	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
SB-1 (A区)										
39	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	12.7	磨き	なで	
40	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	10.3	縦磨き	脚部：はけめ 脚部部：なで	
41	覆土	土師器	鉢	1/3	19.8	12.7	5.9		なで、はけめ、黒色処理	
42	覆土	土師器	美	口縁部	12.8	-	-	なで、はけめ	なで、はけめ	
43	Pit内	土師器	美	口縁部	17.8	-	-	はけめ	はけめ	
SB-2・3・4 (A区)										
44	覆土	土師器	美	1/2	22.4	-	-	なで、はけめ	なで	
45	覆土	土師器	美	4/5	16.5	28.7	4.0	なで、はけめ	なで、はけめ	
46	覆土	土師器	美	1/3	15.6	-	-	なで、はけめ	なで、はけめ	
47	覆土	土師器	高坏	4/5	15.9	13.4	12.4	坏部：なで、はけめ 脚部：はけめ 脚部部：なで	坏部：はけめ→縦磨き 脚部部：なで	
48	覆土	土師器	美	2/3	17.0	-	-	なで、はけめ	なで	
SB-5 (A区)										
49	覆土	土師器	鉢	7/10	13.2	11.0	6.5	なで	なで	
50	覆土	土師器	高坏	1/2	15.0	7.4	9.0	はけめ→磨き?	坏部：横磨き 脚部部：なで	
51	覆土	土師器	坏	3/5	13.0	6.7	-	口縁部：なで→横磨き? 体部：横磨き?	口縁部：はけめ→横磨き? 体部：横磨き?	
53	覆土	土師器	瓶	7/10	20.3	22.1	9.6	口縁部：なで 胴部：はけめ→縦磨き	横磨き	
55	覆土	土師器	美	3/5	18.5	34.0	6.0	口縁部：なで 胴部：はけめ	口縁部：はけめ→なで 胴部部：なで	
SB-6 (A区)										
57	覆土	土師器	坏	1/3	12.8	4.2	-	横磨き	横磨き	
SB-7 (A区)										
58	覆土	土師器	坏	1/2	16.8	7.9	-	横磨き	横磨き、黒色処理	
59	覆土	土師器	坏	3/4	15.9	5.0	-	横・斜磨き	縦磨き、黒色処理	
60	覆土	土師器	坏	2/3	14.9	6.0	-	横磨き	横磨き	
61	覆土	土師器	坏	ほぼ完	15.7	5.5	3.1	磨き	磨き	
62	覆土	土師器	高坏	坏部	20.6	-	-	縦磨き	縦磨き	
SB-8 (A区)										
63	覆土	土師器	坏	ほぼ完	16.3	4.8	-	横磨き	横磨き、黒色処理	
64	覆土	土師器	坏	3/5	15.8	4.1	9.6	磨き?	横磨き、黒色処理	
65	覆土	土師器	坏	7/10	16.5	3.7	9.8	横磨き	横磨き、黒色処理	
66	覆土	土師器	坏	-	9.6	4.3	-		横磨き、黒色処理	底部外面にへら記号あり
67	覆土	土師器	坏	5/6	11.9	4.7	-	磨き、削り	横磨き	
68	覆土	土師器	坏	ほぼ完	11.3	6.8	-	横磨き、削り	横磨き	
69	覆土	土師器	鉢	3/4	10.0	7.5	5.8	なで	なで	
70	覆土	土師器	鉢	-	14.5	12.5	5.0	なで	磨き	
71	覆土	土師器	盅	-	-	-	6.2		胴部部：なで 胴部部：横磨き、黒色処理	
72	覆土	土師器	美	-	13.5	15.3	7.2	口縁部：なで 胴部部：はけめ→なで	なで	
73	覆土	土師器	美	-	18.2	-	-	口縁部：はけめ→なで 胴部部：はけめ	なで、はけめ	
74	覆土	土師器	美	-	-	-	7.1	横磨き	なで	
75	覆土	土師器	美	-	-	-	6.4	縦磨き	なで	
76	覆土	土師器	美	3/4	14.9	29.7	6.6	はけめ	なで、はけめ	
77	覆土	土師器	美	2/3	16.5	31.4	7.6	はけめ	はけめ、なで	

No.	出土位置	種別	図様	遺存度	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
SB-9 (AK)										
78	覆土	土師器	甕	1/10	16.2	-	-	はけめ→横磨き?	口縁部: はけめ→横磨き	
79	覆土	土師器	甕	1/10	19.3	-	-	口縁部: なで 胴部: はけめ	はけめ→なで	
80	覆土	土師器	瓶	3/5	23.6	24.6	11.2	口縁部: なで 胴部: はけめ, なで	はけめ	胴下半部: 焼成前穿孔あり
81	覆土	土師器	甕	3/5	15.2	-	-	口縁部: はけめ 胴部: はけめ→磨き?	口縁部: はけめ→磨き? 胴部: はけめ	
82	覆土	土師器	甕	7/10	16.5	19.2	8.6	口縁部: なで 胴部: はけめ, なで	口縁部: はけめ→なで 胴部: はけめ	
83	覆土	土師器	甕	3/5	15.8	24.5	8.6	口縁部: なで 胴部: はけめ	口縁部: なで 胴部: なで	
205	覆土	土師器	坏	完	9.3	2.4	4.0	ろくろなで 底部: 回転糸切り	ろくろなで	
SB-10 (AK)										
84	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	-	磨き		
85	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	-	はけめ→縦磨き	なで	
86	覆土	土師器	甕	-	13.5	-	-	なで	なで	
87	覆土	土師器	甕	-	16.0	-	-	なで	なで	
88	覆土	土師器	甕	底部	-	-	7.0	はけめ	なで	
89	覆土	染土器	甕	9/10	-	5.8	-	はけめ→縦磨き	横磨き	焼成前穿孔あり、遺入遺物?
SB-11 (AK)										
206	覆土	土師器	鉢	3/4	12.8	9.4	6.2	口縁部: なで 胴部: はけめ	なで	
207	覆土	須恵器	坏	7/8	13.1	3.9	5.7	ろくろなで 底部: 回転糸切り	ろくろなで	
208	覆土	土師器	坏	1/2	12.0	3.5	5.0	ろくろなで 底部: 回転糸切り	ろくろなで	
209	覆土	土師器	坏	完	12.1	3.7	5.0	ろくろなで 底部: 回転糸切り	ろくろなで	
210	覆土	土師器	甕	2/5	14.1	-	-	口縁部: なで 胴部: はけめ, 閉り	はけめ	
SB-12 (AK)										
90	覆土	土師器	坏	9/10	14.3	4.3	7.6	磨き?	磨き?, 黒色処理	
91	覆土	土師器	高坏	4/5	18.0	14.4	12.6	坏部: はけめ→横磨き 脚部: 縦磨き 脚底部: 横磨き	坏部: 磨き?, 黒色処理 脚部: なで	
92	覆土	土師器	甕	7/10	15.7	16.8	7.5	口縁部: なで 胴部: 閉り?	なで	
93	覆土	土師器	甕	-	16.4	-	-	口縁部: なで 胴部: はけめ→縦・斜磨き	なで	
94	覆土	土師器	鉢	9/10	10.9	12.6	6.5	縦・斜磨き	口縁部: 磨き, 黒色処理 胴部: なで, 黒色処理	
95	覆土	土師器	鉢	2/5	17.0	14.5	-	口縁部: なで 胴部: 縦磨き	口縁部: なで, 黒色処理 胴部: 磨き?, 黒色処理	底部内面に指圧痕あり
96	覆土	土師器	甕	ほぼ完	18.7	24.6	7.4	口縁部: なで 胴部: はけめ→縦磨き	口縁部: なで→はけめ 胴部: なで	
SB-14 (AK)										
97	覆土	土師器	甕	2/3	17.9	23.4	-	なで, はけめ	なで, はけめ, 閉り?	
SB-15 (AK)										
1	覆土	土師器	坏	4/5	12.2	5.15	4.5	口縁部: なで 体部: 磨き?	横磨き 黒色処理	
2	覆土	土師器	钵台	7/10	8.9	-	-	受部: はけめ→磨き 脚部: 磨き, 透かし孔3	受部: 磨き 脚部: なで	
3	覆土	土師器	台付甕	脚台部	-	-	9.3	はけめ, なで	はけめ→なで	
4	覆土	土師器	甕	-	-	-	7.5	閉り	なで	底部外面に木葉痕あり
SB-16 (AK)										
98	覆土	土師器	瓶	ほぼ完	18.1	10.3	5.0	口縁部: なで 胴部: 磨き	なで→磨き	
99	覆土	土師器	瓶	4/5	23.2	28.0	9.0	なで	なで	
100	覆土	土師器	坏	完	15.0	4.6	-	口縁部: 横磨き 体部: 閉り	横磨き	
101	覆土	土師器	坏	3/5	16.3	4.4	-	横磨き	横磨き, 黒色処理	
102	覆土	土師器	坏	ほぼ完	17.0	4.1	-	横磨き	横磨き, 黒色処理	

No	品土位置	種別	型種	最厚度	法量 (cm)			成組・調整等		特記
					口縁	唇高	底径	外周	内面	
103	覆土	土脚部	環	ほぼ完成	16.0	4.3	-	口縁部：横置き 体部：閉り	横置き	
104	覆土	土脚部	環	3/5	16.1	4.8	-	横置き	横置き	
105	覆土	土脚部	環	4/5	13.5	8.0	-	横置き	横置き	
106	覆土	土脚部	環	3/5	14.7	4.9	-	横置き	横置き	
107	覆土	土脚部	環	ほぼ完成	13.3	3.9	-	横置き	横置き	
108	覆土	土脚部	環	1/2	16.1	4.6	-	横置き	横置き、黒色処理	
109	覆土	土脚部	環	1/5	17.4	3.8	9.3	横置き	横置き	
110	覆土	土脚部	環	完	13.3	8.1	-	横置き	横置き、黒色処理	
111	覆土	土脚部	環	ほぼ完成	16.2	4.9	-	口縁部：横置き 体部：閉り	横置き	
112	覆土	土脚部	環	4/5	16.0	4.5	-	横置き	横置き	
113	覆土	土脚部	環	ほぼ完成	12.1	6.5	-	横置き	横置き	
114	覆土	土脚部	環	7/10	15.5	-	-	横置き	横置き	
115	覆土	土脚部	環	7/10	15.1	4.4	7.5	口縁部：横置き 体部：閉り	横置き	
116	覆土	土脚部	環	1/2	14.6	6.0	-	横置き	横置き	
117	覆土	土脚部	環	2/5	17.0	-	-	横置き	横置き、黒色処理	
118	覆土	土脚部	環	1/2	15.1	-	-	横置き	横置き	
119	覆土	土脚部	環	2/5	14.6	6.2	-	横置き	横置き	
120	覆土	須窓部	密	ほぼ完成	10.8	11.2	-	ろくろなどで 製部：かきめ 底部：回転閉り	ろくろなどで	
121	覆土	土脚部	鉢	2/3	10.4	10.3	-	横置き	横置き	
122	覆土	土脚部	鉢	3/10	16.0	12.4	7.9	口縁→製部：縦・斜置き 底部：閉り	などで、横置き	
123	覆土	土脚部	密	4/5	11.2	16.8	8.1	製部：縦置き	製部：横置き 底部：なで	
124	覆土	土脚部	差	3/5	14.1	17.9	6.5	口縁部：なで 製部：はけめ、閉り	製部：はけめ	
125	覆土	土脚部	差	4/5	16.0	15.1	8.0	口縁部：なで 製部：はけめ	なで	
126	覆土	土脚部	差	ほぼ完成	15.3	20.6	6.6	口縁部：なで 製部：斜置き	口縁部：横置き 製部：斜置き 底部：なで	
127	覆土	土脚部	差	9/10	16.7	20.7	7.4	はけめ	口縁部：なで 製部：はけめ	
128	覆土	土脚部	差	ほぼ完成	13.7	20.6	7.8	口縁部：はけめ→なで 製部：はけめ	なで	底部外面に木製痕あり
129	覆土	土脚部	差	-	19.2	-	-	口縁部：なで 製部：はけめ	口縁部：はけめ 製部：なで	
130	覆土	土脚部	差	-	15.4	-	-	口縁部：はけめ→なで 製部：はけめ	なで	
131	覆土	土脚部	差	口縁部	15.4	-	-	はけめ→なで	はけめ	
132	覆土	土脚部	差	-	15.2	-	-	口縁部：はけめ→なで 製部：はけめ	なで	
133	覆土	土脚部	差	底部	-	-	8.9	はけめ	なで、はけめ	
134	覆土	土脚部	差	底部	-	-	6.0	はけめ、閉り	なで、はけめ	
135	覆土	土脚部	差	9/10	16.3	33.0	6.0	口縁部：なで 製部：はけめ	口縁部：なで 製部：はけめ	
136	覆土	土脚部	密	ほぼ完成	14.9	29.9	7.5	口縁部：横置き 製部：縦・斜置き	口縁部：横置き 製部：なで	製部：他成後穿孔あり
137	覆土	土脚部	密	7/10	16.6	26.6	8.5	口縁部：なで 製上平部：はけめ 製下平部：なで、閉り？	なで	
138	覆土	土脚部	密	3/5	13.9	22.7	6.0	口縁部：横置き 製部：縦置き	口縁部：斜置き 製部：なで	
140	覆土	土脚部	密	-	-	-	8.5		なで	
S B - 17 (B区)										
211	覆土	土脚部	環	1/2	9.4	2.7	4.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
212	覆土	土脚部	皿	ほぼ完成	10.0	1.7	6.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	

No.	出土位置	種別	形状	遺存度	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	径高	底径	外面	内面	
SB-18 (B区)										
139	覆土	土脚部	差	1/2	15.0	-	-	なで	なで	
SB-19 (B区)										
141	覆土	土脚部	坏	1/2	16.0	4.5	9.8			
142	覆土	土脚部	坏	4/5	11.4	4.1	3.1	磨き?	なで?	
143	覆土	土脚部	鉢	1/3	13.0	-	-	磨き?	横磨き?	
144	覆土	土脚部	差	2/3	17.7	-	-	なで→はけめ	口縁部: はけめ→なで 胴部: なで	
145	覆土	土脚部	高坏	脚部	-	-	-	縦磨き、透かし孔A		
146	覆土	土脚部	差	1/3	17.2	-	-	なで		
147	覆土	土脚部	差	1/2	-	-	9.5	なで?	なで	
148	覆土	土脚部	差	9/10	16.6	32.7	7.9	なで→はけめ	なで	
SB-21 (C区)										
149	覆土	土脚部	坏	4/5	10.5	4.8	-		磨き、黒色処理	
150	覆土	土脚部	高坏	脚部	-	-	-	縦磨き	なで	坏部内面に輪研圧痕あり
151	覆土	土脚部	高坏	坏部	-	-	-			
152	覆土	土脚部	高坏	坏部	15.0	-	-	口縁部: はけめ→なで? 底部: 縦磨き	はけめ→なで	
153	覆土	土脚部	高坏	脚部	-	-	13.0		坏部: 磨き 脚部: なで	
154	覆土	土脚部	高坏	2/5	-	-	-	磨き?	脚部: はけめ→なで	
155	覆土	土脚部	差	底部	-	-	7.0	はけめ	なで	
156	覆土	土脚部	鉢	2/5	15.0	9.5	6.2	斜磨き	縦・斜磨き、黒色処理	
157	覆土	土脚部	差	3/5	16.3	16.8	8.5	口縁部: 磨り 胴部: 沈刷 胴部: なで	なで	
158	覆土	土脚部	差	1/3	20.0	-	-	なで、はけめ	なで、はけめ	
159	覆土	土脚部	差	1/2	18.2	-	-	なで→はけめ	はけめ	扉付着
SK-6 (A区)										
213	覆土	土脚部	輪	9/10	14.7	5.7	8.8	ろくろなで 軋金で	底部: 回転糸切り→磨き、黒色処理	
214	覆土	土脚部	坏	完	12.6	3.1	5.0	ろくろなで	ろくろなで	扉付着?
215	覆土	土脚部	坏	7/10	11.9	3.7	4.4	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで 底部: 指任痕
216	覆土	土脚部	坏	完	11.8	3.2	4.4	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで
217	覆土	土脚部	坏	7/10	13.3	4.4	4.8	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで 底部: 指任痕
218	覆土	土脚部	坏	3/5	11.3	3.4	4.0	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで
219	覆土	土脚部	坏	完	13.2	4.0	5.1	ろくろなで	ろくろなで	底部: 指任痕
220	覆土	土脚部	坏	ほぼ完	11.9	3.4	5.0	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで 底部: 指任痕
221	覆土	土脚部	坏	3/5	11.8	3.1	4.1	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで
222	覆土	土脚部	坏	3/5	13.7	3.9	5.0	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで
223	覆土	土脚部	坏	ほぼ完	11.9	3.5	4.6	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで 底部: 指任痕
224	覆土	土脚部	坏	4/5	11.9	3.8	4.9	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで
225	覆土	土脚部	坏	4/5	11.8	3.1	4.3	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで
SK-11 (A区)										
226	覆土	土脚部	坏	7/10	11.8	3.9	5.3	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで 底部: 指任痕
227	覆土	須恵器	坏	2/5	12.8	4.1	5.6	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで
228	覆土	須恵器	坏	3/5	12.8	3.5	6.0	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで
229	覆土	土脚部	坏	9/10	13.3	4.1	6.0	ろくろなで	底部: 回転糸切り	ろくろなで

No	出土位置	種別	器種	遺存状況	法量 (cm)			成形・調整等		特記	
					口径	径高	底径	外周	内面		
230	覆土	須恵器	坏	2/5	13.8	4.1	6.1	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	外部外面に磨きあり
231	覆土	須恵器	坏	完	13.8	4.0	6.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
SK-12 (A/C)											
232	覆土	土師器	坏	1/2	13.6	4.3	6.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	底部：指圧痕
SK-15 (A/C)											
160	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	12.8	縦磨き		なで	
163	覆土	土師器	坏	3/5	13.0	-	-	横磨き		横磨き	底部焼成後穿孔?
SK-16 (A/C)											
162	覆土	土師器	壺	-	15.2	-	-	口縁部：なで	胴部：はけめ	口縁部：はけめ	胴部：なで
SK-18 (A/C)											
233	覆土	土師器	壺	口縁部	17.6	-	-	なで、はけめ		なで	
SK-23 (A/C)											
236	覆土	須恵器	坏	9/10	10.4	3.8	6.6	ろくろなどで、回転削り	底部：回転削り	なで	底部外面にへら記号あり
SK-24 (A/C)											
165	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	9.4	はけめ、なで		はけめ	
SK-25 (A/C)											
227	覆土	土師器	皿	3/5	8.6	1.9	3.8	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
228	覆土	土師器	皿	3/5	9.2	1.8	4.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
229	覆土	土師器	皿	1/2	10.6	-	-	ろくろなどで、横磨き	黒色処理	横磨き	高台欠損
SK-26 (A/C)											
234	覆土	土師器	坏	3/5	12.3	3.45	5.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
235	覆土	土師器	坏	完	12.2	3.4	6.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
SK-28 (A/C)											
240	覆土	須恵器	摺鉢	底部	-	-	12.0	底部：静止糸切り		磨り目	珠洲焼系陶器、自然釉
241	覆土	土師器	坏	3/5	10.2	2.4	4.7	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
242	覆土	土師器	坏	1/2	9.9	2.3	4.2	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
SK-30 (A/C)											
243	覆土	土師器	坏	2/5	13.6	3.6	5.1	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
244	覆土	土師器	碗	2/5	15.6	-	-	ろくろなどで	底部：回転糸切り→回転なで	磨き、黒色処理	高台欠損
245	覆土	土師器	坏	3/10	11.0	3.3	4.3	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
246	覆土	土師器	坏	ほぼ完	10.2	2.1	5.8	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
247	覆土	土師器	皿	3/5	16.4	4.2	8.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
SK-32 (C/C)											
248	覆土	灰釉陶器	-	底部	-	-	8.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り→回転削り		朱層転用説
SK-33 (A/C)											
249	覆土	土師器	坏	完	9.5	2.45	4.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	
250	覆土	土師器	坏	2/5	15.4	5.8	6.0	ろくろなどで、回転削り	底部：回転削り	横磨き、黒色処理	
SK-37 (A/C)											
253	覆土	土師器	坏	4/5	13.9	3.6	6.5	ろくろなどで	底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
SK-42 (A/C)											
250	覆土	土師器	坏	9/10	10.6	3.3	5.0	ろくろなどで	底部：回転糸切り	ろくろなどで	

No	出土位置	種別	器種	遺存度	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
SK-46 (A区)										
5	覆土	土師器	甕	-	14.6	-	-	口縁部：なで	胴部：はけめ	なで
6	覆土	土師器	台付甕	脚台部	-	-	6.9	はけめ		はけめ
164	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	11.5	脚部：縦磨き	脚縁部：横磨き	なで
166	覆土	土師器	甕	-	18.0	-	-	口縁部：なで	胴部：はけめ	なで
SK-53 (A区)										
161	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	15.2	脚部：縦磨き	脚縁部：横磨き	なで
SK-57 (A区)										
203	覆土	須恵器	瓶	-	-	-	-	橋子たつき目		同心円文
SK-59 (A区)										
251	覆土	土師器	高坏	1/5	-	-	10.4	横磨き		坏部：磨き、黒色処理 脚部：なで
201	覆土	兵衛町段	段皿	9/10	19.2	3.3	9.1	ろくろなで、回転削り	底部：削り、なで	ろくろなで
SK-62 (A区)										
167	覆土	土師器	坏	1/2	12.0	-	-	口縁部：横磨き	体部：縦磨き	口縁部：横磨き 体部：縦磨き
SK-70 (A区)										
252	覆土	土師器	坏	4/5	14.1	6.0	4.6	横磨き		横磨き
256	覆土	土師器	坏	2/5	12.3	5.1	-	横磨き		はけめ→横磨き、黒色処理
SK-71 (A区)										
7	覆土	土師器	鉢	3/5	21.0	9.8	6.0	はけめ→斜磨き		はけめ→斜磨き
8	覆土	土師器	鉢台	7/10	9.7	8.8	12.5	受部：なで、縦磨き 脚部：縦磨き、透かし孔3		受部：磨き 脚部：はけめ、なで
9	覆土	土師器	甕	-	17.0	-	-	口縁部：なで 頸部：はけめ、粘土常貼付		
10	覆土	土師器	甕	-	18.1	-	-	刺突文		横磨き
11	覆土	土師器	台付甕	1/2	15.6	30.1	9.8	口縁：なで	胴～脚部：はけめ	なで
SK-73 (A区)										
254	覆土	須恵器	坏	1/2	12.6	3.8	9.2	ろくろなで 底部：回転糸切り→削り		ろくろなで
SK-78 (B区)										
257	覆土	須恵器	坏	完	13.3	3.7	6.1	ろくろなで 底部：回転糸切り		ろくろなで
SK-93 (B区)										
12	覆土	土師器	甕	口縁部	9.2	-	-	なで？		なで？
13	覆土	土師器	鉢台	受部	7.0	-	-	はけけ→磨き		磨き？
14	覆土	土師器	鉢台	脚部	-	-	-	はけけ→磨き？、透かし孔3		
15	覆土	土師器	甕	口縁部	11.6	-	-	口縁部：はけけ→横および縦磨き 胴部：はけけ		なで→横・斜磨き
16	覆土	土師器	鉢台	受部	7.9	-	-	はけけ→磨き		磨き？
17	覆土	土師器	甕	1/2	-	-	-	はけけ		はけけ、なで
18	覆土	土師器	甕	4/5	9.4	11.3	4.7	はけけ 底部：なで？		口縁部～胴部：はけけ→なで 胴部：はけけ？
19	覆土	土師器	甕	1/3	-	-	7.6	縦磨き		はけけ
20	覆土	土師器	甕	2/3	17.0	-	-	はけけ→なで 胴部：粘土帯貼付付、刺突文		横磨き
21	覆土	土師器	甕	1/3	13.5	-	-	口縁部：はけけ→なで	胴部：はけけ	口縁部：はけけ→なで 胴部：はけけ？
22	覆土	土師器	甕	1/3	16.7	-	-	口縁部～胴部：はけけ→なで	胴部：はけけ	口縁部～胴部：はけけ→なで 胴部：はけけ？
23	覆土	土師器	甕	1/2	17.2	-	-	口縁部：はけけ→なで	胴部：はけけ	なで
24	覆土	土師器	甕	2/3	13.4	-	-	口縁部：なで	胴部：はけけ	なで

No.	品土位置	種別	型種	遺存状況	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
SK-95 (B区)										
25	覆土	土師器	野台	4/5	7.5	7.5	9.4	なで、透かし孔3	なで	
26	覆土	土師器	野台	ほぼ完	8.5	6.3	8.1	なで、はけ	なで?	
27	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	-	はけ、透かし孔6		
28	覆土	土師器	鉢	ほぼ完	7.5	4.4	-	なで、はけ	なで	
29	覆土	土師器	鉢	ほぼ完	8.1	5.8	4.9	なで	なで	
30	覆土	土師器	鉢	ほぼ完	8.5	9.8	3.6	なで、はけ	口縁部：はけ→なで 体部：なで	
31	覆土	土師器	鉢	9/10	10.0	10.0	3.6	なで 底部：削り?	なで	
32	覆土	土師器	壺	1/2	10.0	-	-	なで、はけ?	なで?	
33	覆土	土師器	甕	1/3	14.5	-	-	なで、はけ	口縁部：はけ→なで 胴部：なで	
34	覆土	土師器	合付甕	2/3	11.2	15.4	7.4	口縁部：なで→はけ 胴部：削り 脚部：なで	なで	
35	覆土	土師器	壺	-	-	-	-	なで、刺突文	なで?	
SK-106 (C区)										
168	覆土	土師器	甕	口縁部	26.6	-	-		なで	
169	覆土	土師器	甕	2/5	17.5	25.3	5.8	はけ、削り 底部：削り	なで、はけ	
SK-117 (C区)										
258	覆土	土師器	坏	9/10	12.6	3.6	5.0	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	
260	覆土	土師器	坏	1/2	12.8	3.6	5.3	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	
SK-124 (C区)										
170	覆土	土師器	高坏	坏部	15.0	-	-	なで→磨き	口縁部：なで→磨き 体部：なで→磨き	
SK-127 (C区)										
262	覆土	土師器	坏	1/2	10.5	2.8	2.8	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	
SK-130 (C区)										
255	覆土	土師器	坏	ほぼ完	14.4	4.9	6.7	ろくろなで 底部：削り	磨き、黒色処理	
SK-132 (C区)										
171	覆土	土師器	高坏	脚部	-	-	-	なで→磨き	なで	
264	覆土	須恵器	坏	-	-	-	-	ろくろなで	ろくろなで	外面側位に墨書あり
265	覆土	土師器	坏	2/3	12.4	3.4	5.0	ろくろなで 底部：回転糸切り	磨き	
266	覆土	土師器	坏	2/3	12.4	3.6	4.4	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	
267	覆土	土師器	坏	ほぼ完	12.4	3.6	6.0	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	
268	覆土	土師器	坏	1/2	12.1	3.2	5.0	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	
269	覆土	土師器	坏	1/2	12.0	3.6	4.6	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	内面部分的に剥離する
270	覆土	土師器	坏	3/4	12.1	3.4	4.8	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	
271	覆土	土師器	坏	9/10	13.7	4.4	6.2	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	
272	覆土	土師器	甗	5/6	12.8	4.8	6.5	ろくろなで 底部：回転糸切り	磨き、暗文、黒色処理	
273	覆土	土師器	坏	1/2	16.3	5.1	8.0	ろくろなで、回転削り	磨き、黒色処理	
274	覆土	土師器	甗	ほぼ完	11.4	4.6	5.6	ろくろなで 底部：回転糸切り	磨き、暗文、黒色処理	
275	覆土	土師器	甗	2/3	11.9	4.6	5.2	ろくろなで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
276	覆土	須恵器	坏	ほぼ完	11.7	3.3	4.3	ろくろなで 底部：回転糸切り	ろくろなで	粗雑なつくり、生焼け
SK-133 (C区)										
280	覆土	土師器	甗	1/3	12.6	-	-	ろくろなで	磨き、黒色処理	高台欠損
281	覆土	須恵器	壺	1/2	-	-	7.2	ろくろなで	ろくろなで	自然軸

No	出土位置	種別	器種	遺存度	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	器高	底径	外面	内面	
SK-135 (C区)										
277	覆土	土脚器	坏	1/3	14.7	-	-	ろくろ内で、削り	磨き、黒色処理	
SK-136 (C区)										
278	覆土	須恵器	坏	5/6	13.5	4.1	6.3	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
SK-137 (C区)										
279	覆土	須恵器	坏	3/4	12.5	3.5	6.2	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	外面に黒痕あり?
282	覆土	土脚器	坏	5/6	12.0	3.2	5.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	外面頸位に黒書あり、生焼け
SD-4 (A区)										
283	覆土	土脚器	坏	1/2	15.8	5.4	6.6	ろくろ内で、削り 底部:削り	磨き、黒色処理	
284	覆土	土脚器	坏	1/4	16.0	5.8	6.8	ろくろ内で、削り 底部:削り	磨き、黒色処理	
SD-6 (A区)										
172	覆土	土脚器	高坏	脚部	-	-	12.0	脚部:縦磨き 脚部部:なで	脚部:削り 脚部部:なで	
285	覆土	土脚器	坏	9/10	12.6	3.5	4.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で 底部:指任痕	
286	覆土	土脚器	坏	ほぼ完	11.2	3.6	4.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で 底部:指任痕	
287	覆土	土脚器	坏	ほぼ完	13.1	3.6	6.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
288	覆土	土脚器	坏	1/2	10.6	2.9	4.2	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
289	覆土	土脚器	坏	2/5	11.9	3.8	4.6	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で 底部:指任痕	
290	覆土	土脚器	坏	2/5	13.0	3.0	5.1	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
291	覆土	土脚器	坏	3/10	13.8	3.7	6.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
292	覆土	須恵器	密	1/5	-	-	10.0	ろくろ、回転削り 底部:回転削り	ろくろ内で	
SD-9 (A区)										
293	覆土	須恵器	坏	2/5	13.4	4.2	6.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
294	覆土	土脚器	輪	完	14.4	5.4	6.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
SD-10 (A区)										
295	覆土	土脚器	坏	4/5	12.3	3.3	5.5	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
296	覆土	土脚器	坏	4/5	13.0	3.8	5.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
SD-11 (A区)										
297	覆土	土脚器	坏	7/10	12.5	3.7	5.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
SD-12 (A区)										
298	覆土	土脚器	輪	9/10	15.4	5.9	7.8	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
299	覆土	土脚器	坏	1/2	11.0	3.6	5.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
300	覆土	土脚器	坏	完	11.4	3.4	4.7	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
SD-25 (B区)										
301	覆土	土脚器	坏	5/6	13.0	4.2	6.6	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
SD-29 (C区)										
174	覆土	土脚器	高坏	脚部	-	-	15.3	なで縦磨き	なで、削り	
SD-30 (C区)										
36	覆土	湧生土器	甕	胴部	-	-	-	口縁部:縦割文 胴部:刺突文	なで	北陸系土器
SD-31 (C区)										
173	覆土	土脚器	高坏	坏部	-	-	-	なで、磨き?	横磨き	

No.	品土位置	種別	型種	造存状況	法量 (cm)			成形・調整等		特記	
					口径	唇高	底径	外面	内面		
SD-34 (C区)											
302	覆土	土脚部	環	3/4	11.2	3.8	4.5	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
303	覆土	土脚部	環	ほぼ完	12.2	3.1	5.0	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで、磨き	
304	覆土	土脚部	環	3/4	13.4	3.5	4.5	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
305	覆土	土脚部	輪	2/3	14.2	5.6	7.2	ろくろなで		磨き、黒色処理	
306	覆土	瓦輪陶部	皿	3/4	12.4	2.3	6.6	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	輪つけ掛け
307	覆土	土脚部	-	1/2	-	-	2.8	なで、削り、磨き、黒色処理		磨き、黒色処理	
SD-38 (C区)											
175	覆土	土脚部	壺	4/5	-	-	6.4	割部:はけ→なで	底部:削り→なで	なで	
308	覆土	土脚部	壺	口縁部	12.0	-	-	ろくろなで		ろくろなで	
309	覆土	瓦輪陶部	皿	1/3	14.0	3.1	5.8	ろくろなで、削り	底部:回転糸切り→回転削り	ろくろなで	輪つけ掛け
SD-42 (C区)											
181	覆土	土脚部	はそう	ほぼ完	6.9	9.6	-	なで		なで	
Pt-37 (C区)											
178	覆土	土脚部	環	1/3	12.2	5.1	-				
Pt-76 (C区)											
310	覆土	瓦輪陶部	輪	1/2	13.5	4.1	7.2	ろくろなで	底部:回転糸切り→なで	ろくろなで	輪つけ掛け
311	覆土	瓦輪陶部	輪	1/2	12.7	4.4	6.3	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	輪つけ掛け
Pt-179 (C区)											
180	覆土	土脚部	高環	坏部	15.7	-	-	なで→縦磨き		なで→縦磨き	外面に焼成前縦割あり
Pt-262 (C区)											
312	覆土	土脚部	環	完	10.9	3.2	4.4	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
Pt-264 (C区)											
176	覆土	土脚部	壺	1/3	16.2	-	-	口縁部:はけ→なで	割部:はけ	口縁部:なで	割部:はけ
179	覆土	土脚部	高環	脚部	-	-	10.0	縦磨き		坏部:磨き、黒色処理	脚部:なで
SX-1-2-5-6											
177	覆土	土脚部	高環	脚部	-	-	13.3	なで→縦磨き		なで	
183	覆土	土脚部	壺	1/4	23.4	-	-	はけ→縦磨き		はけ→縦磨き	
313	覆土	須恵器	環	1/2	12.9	3.6	6.4	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
314	覆土	須恵器	環	3/5	12.7	4.2	5.9	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
315	覆土	須恵器	環	3/5	11.4	4.3	7.4	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
316	覆土	須恵器	環	7/10	13.0	4.1	5.8	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
317	覆土	須恵器	環	4/5	13.5	3.4	6.5	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
318	覆土	須恵器	環	4/5	13.2	3.7	5.4	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
319	覆土	須恵器	環	3/5	13.6	3.8	6.2	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	外面に磨きあり
320	覆土	土脚部	環	7/10	11.5	3.5	4.8	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	
321	覆土	土脚部	環	1/2	13.3	4.5	6.2	ろくろなで	底部:回転糸切り→削り	磨き、黒色処理	
322	覆土	土脚部	環	1/2	14.4	5.3	5.8	ろくろなで	底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
323	覆土	須恵器	環	1/2	13.4	4.2	5.8	ろくろなで	底部:回転糸切り	ろくろなで	底部外面にへら記号あり
324	覆土	土脚部	環	7/10	12.9	3.6	6.8	ろくろなで、削り	底部:回転糸切り→削り	磨き、黒色処理	
325	覆土	土脚部	環	9/10	16.2	6.5	7.2	ろくろなで、削り	底部:回転糸切り→削り	磨き、黒色処理	
326	覆土	土脚部	高環	坏部	11.8	-	-	なで、縦磨き		横・縦磨き	

No	品土位置	種別	型種	最外径	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	唇高	底径	外面	内面	
327	覆土	土脚器	環	9/30	12.8	3.8	5.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
328	覆土	土脚器	環	3/5	17.9	5.2	7.6	ろくろなどで 底部：回転糸切り→ 削り	磨き、黒色処理	
329	覆土	土脚器	輪	7/30	11.4	4.6	6.4	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
330	覆土	土脚器	葉	3/5	12.2	15.1	5.7	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
331	覆土	土脚器	環	7/30	13.8	4.8	5.7	ろくろなどで、削り 底部：回転糸切り →削り	磨き、黒色処理	外面に黒書あり
S X - 3 (C K)										
332	覆土	須臾器	環	1/2	12.9	3.8	5.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
333	覆土	須臾器	環	4/5	13.1	3.5	5.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
334	覆土	須臾器	環	1/2	13.0	3.6	5.4	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
335	覆土	土脚器	環	2/3	12.8	4.1	5.5	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
336	覆土	土脚器	環	ほぼ円	12.3	3.5	5.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
337	覆土	土脚器	環	2/3	16.2	6.0	6.2	ろくろなどで	磨き、黒色処理	表面が割離する
338	覆土	土脚器	環	1/2	12.2	5.1	-	ほぼ	磨き、黒色処理	
339	覆土	土脚器	皿	1/3	11.8	-	-	ろくろなどで、磨き、黒色処理 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	高台欠損
S X - 7 (C K)										
340	覆土	須臾器	環	完	12.6	3.6	4.9	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	粗雑なつくり、生焼け
341	覆土	須臾器	環	ほぼ円	12.3	3.7	4.9	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	粗雑なつくり、生焼け
342	覆土	土脚器	環	ほぼ円	12.5	3.6	4.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
343	覆土	土脚器	環	2/3	13.0	3.4	5.1	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
344	覆土	土脚器	環	ほぼ円	11.1	3.4	4.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
345	覆土	土脚器	環	1/2	12.9	3.7	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
346	覆土	土脚器	環	4/5	12.4	3.8	5.1	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
347	覆土	土脚器	環	5/6	12.5	3.2	4.5	ろくろなどで 底部：回転糸切り	黒色処理	
348	覆土	土脚器	環	1/3	13.4	3.4	4.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
349	覆土	土脚器	環	5/6	13.4	4.2	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
350	覆土	土脚器	環	3/4	12.0	3.5	4.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
351	覆土	土脚器	環	5/6	12.9	3.9	5.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
352	覆土	土脚器	環	完	12.0	3.4	5.4	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
353	覆土	土脚器	環	5/6	12.4	4.0	4.6	ろくろなどで 底部：回転糸切り	黒色処理	
354	覆土	土脚器	環	1/2	12.9	3.6	5.1	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
355	覆土	土脚器	環	完	12.5	3.6	4.9	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
356	覆土	土脚器	環	ほぼ円	12.8	3.4	4.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	黒色処理	
357	覆土	土脚器	環	1/2	12.6	3.9	4.6	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
358	覆土	土脚器	環	9/10	11.6	3.0	5.5	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
359	覆土	土脚器	環	ほぼ円	11.9	3.3	4.7	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
360	覆土	土脚器	環	1/2	13.0	3.8	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	内外面に黒褐色付着物あり
361	覆土	土脚器	環	1/2	15.2	4.3	4.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	
362	覆土	土脚器	環	1/3	15.0	4.1	5.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
363	覆土	土脚器	環	3/4	15.6	4.8	5.9	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
364	覆土	土脚器	輪	2/3	14.0	4.6	6.3	ろくろなどで 底部：回転糸切り	黒色処理	
365	覆土	灰輪陶器	輪	2/5	15.0	5.1	8.2	ろくろなどで、削り	ろくろなどで	つけ掛け輪
366	覆土	灰輪陶器	- 底部	-	-	-	7.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り→削り		転用規

No	出土位置	種別	器種	遺存状況	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口縁	器高	底径	外面	内面	
367	覆土	土師器	長頸壺	9/10	-	-	7.0	ろくろなどで	ろくろなどで	
368	覆土	兵輪両耳 甕?	2/5	-	-	14.1		ろくろなどで 底部: 回転糸切り→回転筒り?	ろくろなどで	自然焼?
369	覆土	土師器	壺	ほぼ完	5.0	4.9	3.9	ろくろなどで	底部: 回転糸切り	ろくろなどで
370	覆土	土師器	甕	1/2	7.5	5.2	4.1	ろくろなどで、削り	底部: 回転糸切り→削り	ろくろなどで
包含層・検出面 (A・B・C区)										
37	A検出	土師器	壺	口縁部	15.0	-	-	口縁部: はけめ→横磨き、削突 胴部: はけめ→横磨き	口縁部: 横・斜磨き 胴部: はけめ→なで	
38	A検出	土師器	鉢	2/3	18.8	-	-	口縁部: 削り返し、なで 胴部: はけめ	なで?	
182	A検出	土師器	壺	1/3	22.1	-	-	磨き	磨き	
184	A検出	土師器	高坏	坏部	16.8	-	-	はけめ	はけめ	
185	A検出	土師器	高坏	坏部	16.6	-	-	縦磨き	磨き	
186	A検出	土師器	坏	1/2	13.0	5.45	-	口縁部: 横磨き 胴部: 縦磨き	口縁部: 横磨き 胴部: 縦磨き	
187	C検出	土師器	坏	2/3	10.6	6.4	-	横磨き	横磨き	
188	A検出	土師器	坏	4/5	14.5	5.3	4.0	横磨き	横磨き	
189	A検出	土師器	坏	4/5	11.8	5.2	-			底部外面にへら記号あり
190	A検出	土師器	鉢	1/2	12.0	13.4	-	縦磨き	横磨き、黒色処理	
191	A検出	土師器	鉢	4/5	11.1	12.4	4.8	口縁→胴部: 縦磨き 底部: 削り	横磨き、黒色処理	
192	C検出	土師器	鉢	1/2	10.3	-	-	横・斜磨き	横・斜磨き	
193	A検出	土師器	甕	-	-	-	-			
194	A検出	土師器	瓶	1/2	14.7	12.3	4.8	口縁部: なで 胴部: 削り	黒色処理 口縁部: なで 胴部: はけめ	
195	C検出	土師器	瓶	底部	-	-	5.2	磨き	なで	
196	A検出	土師器	瓶	1/4	19.4	23.5	10.4	口縁部: 横磨き 胴部: はけめ→縦磨き	口縁部: 横磨き 胴部: はけめ→縦磨き	
197	A検出	土師器	岩台	脚部	-	-	9.7	はけめ	はけめ→なで	
198	A検出	土師器	高坏	脚部	-	-	6.6	縦磨き	なで	
199	A検出	土師器	高坏	脚部	-	-	11.9	脚部: 縦磨き 脚幅部: 磨き	なで	
200	A検出	土師器	台付甕	脚台部	-	-	10.0	はけめ	なで	
201	A検出	土師器	台付甕	脚台部	-	-	10.4		なで	
202	C検出	土師器	甕	口縁部	21.4	-	-	はけめ→なで	口縁部: なで 胴部: はけめ→削り	
203	C検出	土師器	甕	底部	-	-	-	縦磨き	はけめ→なで	
204	A検出	土師器	甕	-	-	-	6.2	磨き	はけめ	
371	A検出	須恵器	蓋	3/10	13.8	2.6	-	ろくろなどで 回転削り	ろくろなどで	
372	A検出	土師器	皿	2/3	9.0	2.4	3.6	ろくろなどで 底部: 回転糸切り	ろくろなどで	
373	A検出	須恵器	坏	3/5	12.0	3.95	7.7	ろくろなどで 底部: 回転糸切り	ろくろなどで	
374	A検出	須恵器	坏	1/2	12.8	4.2	9.2	ろくろなどで 底部: 回転糸切り	ろくろなどで	
375	C検出	須恵器	坏	1/2	15.0	4.2	11.0	ろくろなどで 底部: 回転糸切り→回転筒り	ろくろなどで	底部外面にへら記号あり
376	C検出	須恵器	坏?	底部	-	-	6.1	ろくろなどで 底部: 回転糸切り?	ろくろなどで	
377	A検出	須恵器	坏?	-	-	-	-	ろくろなどで	ろくろなどで	外面に墨書あり
378	A検出	須恵器	坏	1/2	13.4	3.6	6.0	ろくろなどで 底部: 回転糸切り	ろくろなどで	
379	A検出	須恵器	坏	7/10	12.3	3.8	6.2	ろくろなどで 底部: 回転糸切り	ろくろなどで	
380	A検出	須恵器	坏	2/5	12.8	3.6	5.6	ろくろなどで 底部: 回転糸切り	ろくろなどで	
381	A検出	須恵器	坏	3/10	12.9	4.2	6.3	ろくろなどで 底部: 回転糸切り	ろくろなどで	
382	A検出	須恵器	坏	5/6	13.1	4.0	6.9	ろくろなどで 底部: 回転糸切り	ろくろなどで	

No	出土位置	種別	形状	遺存状況	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	径深	底径	外周	内面	
383	C線出	須恵器	坏	1/2	13.1	3.5	6.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
384	A線出	須恵器	坏	5/6	13.4	3.7	7.1	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
385	C線出	須恵器	坏	1/2	13.0	3.8	5.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
386	A線出	須恵器	坏	2/5	12.3	4.2	7.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	火摩痕あり
387	A線出	須恵器	坏	2/5	13.6	4.2	6.4	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
388	C線出	須恵器	坏	3/5	13.0	3.9	5.9	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
389	C線出	須恵器	坏	1/2	13.1	4.1	6.3	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
390	A線出	土師器	坏	3/5	11.6	3.6	4.5	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
391	A線出	土師器	坏	ほぼ実	11.3	3.1	5.7	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
392	A線出	土師器	坏	3/5	10.8	3.4	4.1	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
393	A線出	土師器	坏	3/4	11.4	3.1	4.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
394	A線出	土師器	坏	1/2	12.0	3.4	4.7	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
395	A線出	土師器	坏	完	12.2	3.4	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
396	A線出	土師器	坏	7/10	12.1	3.7	4.6	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
397	A線出	土師器	坏	2/5	11.6	3.1	4.3	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
398	A線出	土師器	坏	1/2	10.0	2.4	4.5	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
399	A線出	土師器	坏	3/10	11.8	3.7	4.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
400	A線出	土師器	坏	1/2	11.5	3.2	4.9	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
401	A線出	土師器	坏	ほぼ実	10.6	2.6	4.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
402	A線出	土師器	坏	4/5	11.5	3.5	4.7	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで、磨き	磨き、黒色処理
403	A線出	土師器	坏	1/2	11.7	3.6	5.5	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
404	A線出	土師器	坏	2/3	11.4	3.35	4.1	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
405	A線出	土師器	坏	4/5	13.0	4.0	6.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
406	A線出	土師器	坏	1/2	11.0	3.2	4.2	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
407	A線出	土師器	坏	完	10.5	2.5	4.7	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
408	A線出	土師器	坏	3/4	11.0	3.0	4.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
409	A線出	土師器	坏	1/2	10.8	3.25	4.5	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
410	A線出	土師器	坏	3/5	13.0	3.3	4.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	磨き、黒色処理	磨き、黒色処理
411	A線出	土師器	坏	5/6	11.6	3.8	5.4	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
412	A線出	土師器	坏	2/5	13.0	3.4	5.4	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
413	A線出	土師器	坏	1/2	12.9	3.4	4.8	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
414	A線出	土師器	坏	5/6	10.7	3.0	4.1	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
415	A線出	土師器	坏	7/10	11.9	3.4	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
416	A線出	土師器	坏	ほぼ実	11.5	2.8	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
417	A線出	土師器	坏	1/2	10.2	3.3	4.9	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
418	A線出	土師器	坏	5/6	10.7	3.2	4.1	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
419	A線出	土師器	坏	1/2	11.8	3.5	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
420	A線出	土師器	坏	2/3	10.9	3.45	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
421	A線出	土師器	坏	完	13.7	3.5	6.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
422	A線出	土師器	坏	1/2	10.3	3.6	5.0	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	
423	A線出	土師器	坏	1/2	12.4	3.85	4.7	ろくろなどで 底部：回転糸切り	ろくろなどで	

No.	出土位置	種別	形種	遺存度	法量 (cm)			成形・調整等		特記
					口径	径高	底径	外周	内面	
424	A線出	土師器	坏	1/2	12.6	-	-	ろくろ内で	ろくろ内で	
425	A線出	土師器	坏	9/10	12.0	3.2	3.8	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
426	A線出	土師器	坏	2/3	12.8	3.9	5.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
427	A線出	土師器	坏	完	11.4	3.5	4.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
428	A線出	土師器	坏	4/5	11.6	3.2	5.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
429	A線出	土師器	坏	3/5	12.0	3.3	5.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
430	A線出	土師器	坏	1/3	12.2	3.5	5.9	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
431	A線出	土師器	坏	1/2	12.1	3.1	4.8	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
432	A線出	土師器	坏	1/2	11.0	3.4	4.9	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
433	A線出	土師器	坏	2/3	11.9	4.15	4.2	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
434	A線出	土師器	坏	2/3	14.2	4.4	6.8	ろくろ内で、回転磨り	磨き、黒色処理	
435	C線出	土師器	坏	1/2	12.5	4.2	4.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
436	A線出	土師器	坏	9/10	12.0	3.7	5.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
437	A線出	土師器	坏	1/3	13.4	4.4	5.5	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
438	A線出	土師器	坏	1/2	12.5	4.5	5.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
439	C線出	土師器	坏	7/10	14.8	4.4	5.8	ろくろ内で、磨り 底部:回転糸切り→磨り	磨き、黒色処理	
440	C線出	土師器	坏	4/5	14.5	4.3	5.7	ろくろ内で、磨り 底部:回転糸切り→磨り	磨き	
441	C線出	土師器	坏	ほぼ完	15.2	4.8	6.4	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
442	C線出	土師器	坏	2/3	15.4	5.9	6.5	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
443	C包含	土師器	坏	2/3	15.7	6.7	6.0	ろくろ内で 磨り 底部:磨り	磨き、黒色処理	
444	A線出	土師器	碗	3/10	14.0	-	-	ろくろ内で	磨き、黒色処理	高台欠損
445	A線出	土師器	碗	2/5	10.8	4.4	6.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	横磨き、黒色処理	扉付着
446	A線出	土師器	碗	1/2	11.3	4.2	6.2	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
447	A線出	土師器	碗	1/2	12.9	4.6	6.7	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	底部焼成後穿孔あり
448	A線出	土師器	碗	1/2	14.0	5.95	9.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
449	A線出	土師器	碗	3/5	10.5	4.5	5.5	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、黒色処理	
450	A線出	土師器	碗	3/5	15.0	6.6	6.6	ろくろ内で	磨き、黒色処理	
451	A線出	土師器	碗	3/10	-	-	7.5	ろくろ内で 底部:回転糸切り	磨き、硝文、黒色処理	
452	A線出	土師器	盤	ほぼ完	8.7	3.2	3.7	ろくろ内で	ろくろ内で	
453	A線出	土師器	皿	ほぼ完	9.4	2.1	3.9	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	扉付着、灯明黒
454	C線出	土師器	皿	3/4	10.4	3.6	4.9	ろくろ内で	ろくろ内で	
455	C線出	須恵器	密	底部	-	-	7.8	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	自然釉
456	A線出	土師器	碗	1/2	12.8	4.8	7.1	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
457	A線出	瓦輪陶器	碗	1/10	16.8	6.2	8.1	ろくろ内で、回転磨り	ろくろ内で	軸つけ磨き
458	A線出	藤輪陶器	碗	1/2	-	-	8.2	ろくろ内で、磨き 底部:回転糸切り→回転磨り	磨き	全面施釉
459	A線出	藤輪陶器	碗	底部	-	-	7.0	ろくろ内で 底部:回転糸切り→回転磨り	磨き	全面施釉
460	A線出	藤輪陶器	碗	3/4	13.3	5.0	6.7	ろくろ内で 底部:回転糸切り→回転磨り	ろくろ内で	全面施釉
461	A線出	瓦輪陶器	-	-	-	-	-	-	-	
462	C線出	土師器	密	完	4.0	3.6	3.0	横磨き	なで?	
463	A線出	土師器	密	3/5	7.9	5.7	4.6	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	
464	A線出	土師器	葉	-	16.3	-	-	口縁部:なで 胴部:はげめ→縦磨き	なで	
465	C線出	土師器	葉	2/3	-	-	7.3	ろくろ内で 底部:回転糸切り	ろくろ内で	

2 土製品 (図67)

ミニチュア土器 (1~6) 径は3が7cm、1・5・6が5~5.5cm、2・4が3.8cm。器高は全体で3~4cm。器壁は指痕を残すが、6では調整がみられる。

土製円板 (7~13) 土器の転用と考えられる、周囲に加工が施されたもの。直径3.7~4.5cm。

土玉 (14) 径5.5×4.9cm。全体に大きく歪んだ形をし、調整などはみられない。側面には黒斑がみられる。

紡錘車 (15~17) 15: 径3.7cm、器高3.3cm。形は全体に丸い。裏面を中心に黒斑がみられる。16: 径6.0cm、器高3.8cm。整った円錐形を呈する。17: 径7.3cm、器高2.9cm。半分のみで円柱形に近い形態とみられる。

不明土製品 (18) 残存量長さ32.5cm、幅5.0cm。凹凸のある形で縦半分に分れ、内外面には指痕を残す。

支脚 (19・20) 径約5.7cm。欠損するが、19には火痕がみられる。

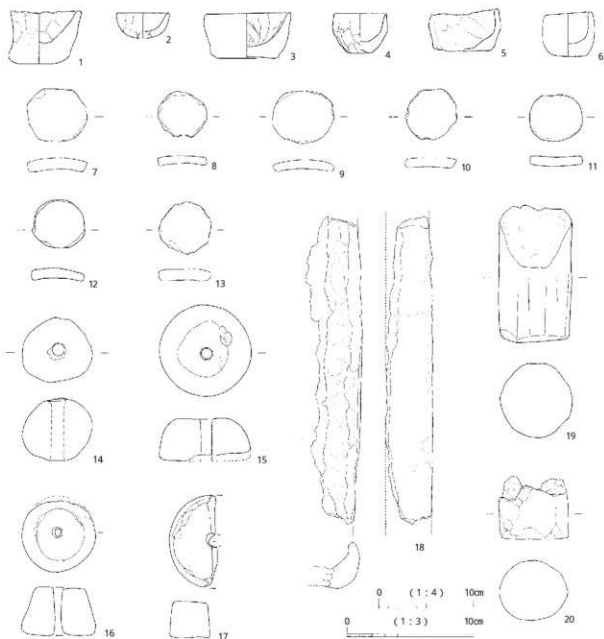


図67 土製品実測図 (S=1:3、18のみS=1:4)

3 石製品 (図68・69)

石斧 (1・2) いずれも半分を欠損している。安山岩製で背面を中心に調整がみられる。

砥石 (3~12) 3~9は置き砥石、10~12は上部に穿孔がみられることから持ち砥石としての機能が考えられる。置き砥石は長さが9cm~15cm、幅は3~6cm程。一面のみの使用の他、5・7では表裏2面の使用がみられる。また5では深さ0.3~0.4cmの筋状に砥がれている。持ち砥石は全体の残る10で長さ10cm、幅は3~4.6cm程。両面使われている様子がみられるが、11では細い筋状の跡がみられる。

支脚 (13) 長さ10.9cm、径9.0cmの円錐状を呈する。石材を割って平にした面を上に向けて据えられていたため、外面から中にかけて同心円状に焼けた跡が明確に残る。

凹石状石臼 (14~16) 14:長さ22.8cm、幅16.7cm。長方形の自然石の中央の径6cmの窪みが作られている。15・16:径10cmの小型の河原石を使っている。中央の全体に窪みが作られている。

硯 (17) 破片の状態では表面は剥離している。石を削り出して作られている。方形を呈するものと思われ、海部と陸部がみられる。

管玉 (18・19) 18:長さ2.6cm、径0.5cm。19:長さ3.1cm、径0.7cmでやや楕円に近い形。いずれも滑石裂のものである。

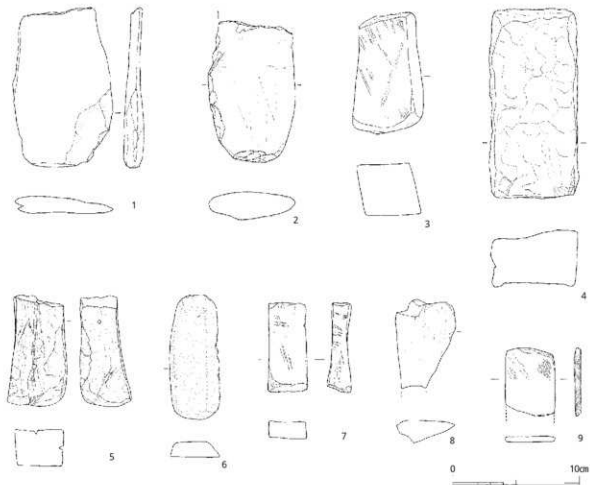


図68 石製品実測図① (S=1:3)

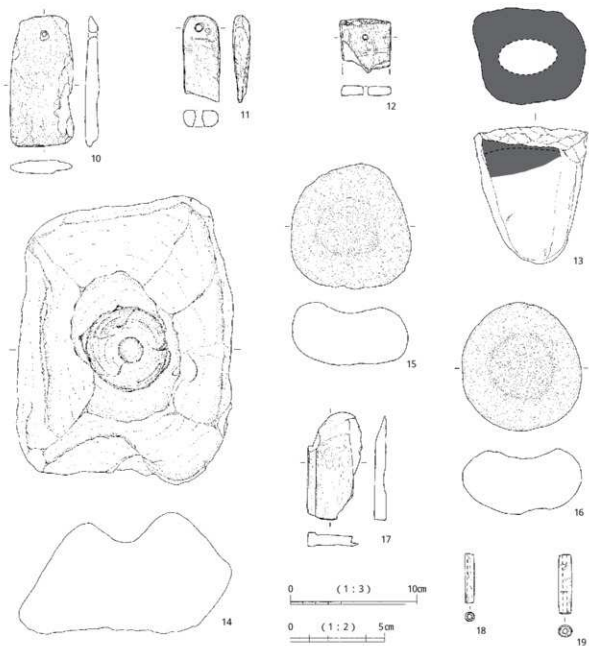


図69 石製品実測図② (10~17: S = 1 : 3、18・19: S = 1 : 2)

4 鉄・銅製品 (図70~72)

鎌 (1・2) 1: 残存量6.9cm。基部と刃部の一部が欠損する。平面形態は圭頭式に似た形を呈する。刃部は幅2.0cmで断面は両丸造り。基部断面は長方形を呈する。2: 基部を欠損するのみで残存量10.0cm。平面形態は柳葉形を呈し、身間部は逆刺となる。刃部幅1.9cmで断面は両丸造り。基部は丸みのある方形を呈する。

釘 (3) 残存量約11cm。先端部は曲がり、僅かに欠く。釘頭部は円形の皿を乗せたものと推測される。断面はゆがんだ四角形を呈する。

刀子 (4~7) 4: 残存量9.8cm (刃部5.2cm) 刃部・基部共にほぼ全体が残る。間部は左右がずれた位置にあ

る。5：残存量6.5cm。残りは僅かであるが、断面より関部のない形態とみられる。6：残存量5.5cm（刃部4.8cm）関部は片側のみ明瞭にみられる。7：残存量13.5cm（刃部7.1cm）刃部先端と基部を欠く。関部はほぼ左右対称に造られている。

8：残存量9.2cm上部のみを欠く。棒状で断面は円形を呈する。釘の可能性が考えられる。

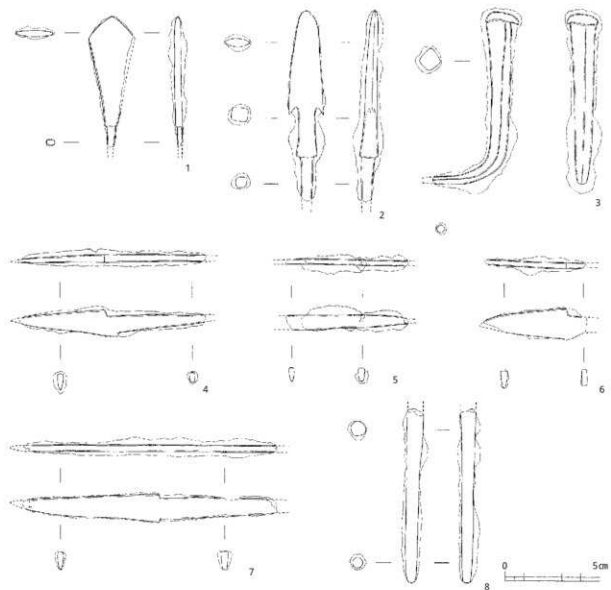


図70 鉄製品実測図（S = 1 : 2）

青銅製蝶番 縦5.0cm、横4.0cm、完形である。一枚の板を丸めて環状部を造っており、中には心棒が残る。板部は三角形を呈し波状となっている。釘穴は波状の形に合わせて5つが開けられている。また、表になる面の全体には金メッキが施されている。

溝より、1点のみの出土である。

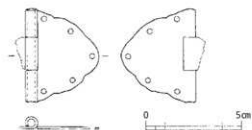


図71 青銅製蝶番実測図（S = 1 : 2）